

基礎からしっかり学ぶ!スペイン語レッスン 話せる楽しさを実感しながら、スペイン語を身に付けよう!

新規開講入門クラスのご案内(各クラス定員4名) 【一般コース 全12回/入門クラス】

(2014年6月開講)

月曜日 20:30-21:20 / 2014年6月23日~9月8日 水曜日 19:30-20:20 / 2014年6月25日~9月10日 土曜日 16:30-17:20 / 2014年6月28日~9月13日

(2014年7月開講)

火曜日 11:30-12:20 / 2014年7月29日~10月14日 火曜日 18:30-19:20 / 2014年7月29日~10月14日 水曜日 17:30-18:20 / 2014年7月30日~10月15日

教材費:1,944円 受講料:44,160円(分納可)

入会金 16,200円 OFF!!

(2014年8月末まで)

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじ めての方でも安心してスタートできます!各クラス定員になり次 第、締め切りますので、お早めにお申込ください。

無料体験レッスンのご予約は お電話で承ります。 TEL 06-6346-5554

新規開講コースの日程が合わない方や、その他の曜日や時間をご希望の方は お気軽にお問合せください。

また、学習経験者の方は是非一度レベルチェックを兼ねた無料体験レッスン(要 予約)をお試しください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。



【お問合せ】 スペイン語教室アデランテ 06-6346-5554 www.adelante.jp info@adelante.jp

Vanzamos



adelante jp

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 E-mail: info@adelanteshop.jp

1.944円(税込)

本書は、初めてスペイン語に触れる方を対象とした入門者向 けスペイン語テキストです。

個人授業、グループクラスの両方で使用可能。8課から構成 され、A1レベルに相当する口答表現、文章読解、聞き取り、読 解の4技能を伸ばしながら、2セメスター(1年間)かけて学 習できるため、大学でのスペイン語の授業にも最適です。



スペイン・バスク料理会

美食の街として知られるサン・セバスティアン出身の講師が、家庭でも簡単 に作れる料理を伝授します!

【日時】 ①2014年7月20日(日) 11時~16時頃

①2014年8月24日(日)11時~16時頃

【場所】 クレオ大阪西 クラフト調理室 【参加費】 4,000円

【持ち物】 エプロン、三角巾、ふきん

【アクセス】JR環状線・阪神なんば線「西九条」駅下車、徒歩約3分

大阪市此花区西九条6丁目1番20号

【お申込方法】 3月29日(土)までに参加費とあわせてお申込ください。 ※参加人数に限りがありますので、定員になり次第締め切りとなります。



スペイン情報誌acueducto 定期購読のご案内

スペイン情報誌acueductoでは、定期 購読をご希望の方に、送料をご負担頂 き、ご自宅までお届けしております。ご希 望の方は、右の4項目を明記し、ファッ クス、郵送、E-mailのいずれかでお申込 みください。(お届けはお申込書提出・ ご入金後となります。)

① 氏名 ② 電話番号

③ご住所 ④必要部数

【お申込先】

1. 郵送の場合 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F 有) ADELANTE 宛

2. ファックスの場合 06-6110-5122

3. E-mailの場合 info@acueducto.jp

【送料】1,200円(1年間:4号分)

スペイン留学セミナー





www.spainryugaku.jp

www.スペイン留学.jp

email: info@spainryugaku.jp TEL: 06-6346-5554

いつかスペインに留学してみたいな ... と考えているあなたへ! スペインの都市、学校・コース、滞在方法、費用、学生ビザ、準備方法などをスペイ

ンに留学経験のあるスタッフが詳しくご説明いたします。 是非お気軽にご参加ください!セミナー後、個人カウンセリングもご予約承ります。

1.6月15日(日)11:00~

2.6月29日(日)11:00~

3.7月13日(日)11:00~

4.8月3日(日)11:00~

5.8月31日(日)11:00~

(セミナー所要時間 約40分 - その後個別カウンセリング)

【場所】スペイン語教室アデランテ

〒530-0035 大阪府大阪市北区梅田2-5-8-2F ※ 参加ご希望の方は、必ず事前にお電話にてお申込ください。

【特別セミナー開催決定!】

日時:6月7日(土)午前11時~12時

京都外国語大学にて、留学セミナーを開催致します。

学生以外の方もご参加いただけますので、この機会に是非ご参加下さい! *特別セミナーへの参加申込は不要です。

【お申込・お問合せ】有限会社ADELANTE / TEL:06-6346-5554





acueducto nº17

ESPECIAI	【 特集
GASTRO	NOMIA グルメ
MÚSICA	音楽
ESPAÑOI	L スペイン語
VARIOS	その他
HISTORIA	4 歴史
FÚTBOL	サッカー





ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第17号をお届け致します



En la época de globalización, se desarrollan múltiples "diplomacias" a escala mundial: las casas reales, los dirigentes políticos, las relaciones comerciales, los intercambios entre las universidades o entre los municipios. En cuanto a

relaciones hispano-japonesas, resulta de gran interés el hecho de que existan varias ciudades hermanadas, lo cual empezó con el acuerdo entre Toledo y Nara en 1972. Actualmente hay doce alianzas entre los municipios hispano-japoneses. Por ejemplo, Galicia y Wakayama son provincias hermanadas y sus Camino de Santiago y Camino Antiguo de Kumano también tienen el hermanamiento, el único en el mundo con motivo del "camino de peregrinación".

Mundialmente, además de Santiago y de Kumano, existen numerosos "caminos". Entre ambos, se ven diversos puntos comunes y parecidos, de ahí que llegaran a ser "caminos hermanados". Sobre estos caminos se investiga últimamente de forma próspera, pero los estudios comparados siguen en proceso. Espero que en un futuro cercano podamos saber aún más sobre esos puntos comunes y parecidos entre los dos caminos.

> Shoji Bando Director

グローバル時代にあって、皇室・王室外交、首脳外 交、民間企業によるビジネス提携、あるいは大学間の 学術・学生交流、さらには地方自治体や市民間の交流 などさまざまな交流が、かつてない勢いで展開してい ます。スペインと日本の交流を考えるとき、地方自治体 間の姉妹都市に注目すると、両国間の姉妹都市交流 は1972年に、古都トレドと奈良の間ではじまり、現在 12の地方自治体が姉妹都市交流を行なっています。 そんな中で興味深いのは、ガリシアと和歌山が姉妹都 市となり、さらには熊野古道とサンティアゴの道が世 界でも唯一の姉妹道提携を結んでいることです。

世界には熊野古道やサンティアゴの道のほかにも 巡礼路が数多く存在しています。そんな中で熊野古道 とサンティアゴの道の間にはいろいろな共通点や対 照点が見られ、その結果、姉妹道となりましたが、両者 自体の研究は進んでいますが、比較研究はまだ発展 途上です。2つの道の類似点と相違点が明らかにされ る日が近いことを願っています。

坂東 省次

坂東省次 ばんどうしょうじ / Shoji Bando

京都外国語大学スペイン語学科長・教授。 京都セルバンテス懇話会代表。 専攻はスペイン語学、日西交流史。 近著に『スペインを訪れた作家たち』(沖積舎)がある。

スペイン情報誌 acueducto Director: Shoji Bando 坂東省次

Alejandro Contreras アレハンドロ・コントレラス

Maquetación y diseño: **Ayako Wakita** 脇田絢子 Sachi Yamakage 山陰さち

Colaboradores: Yo Kawanari 川成洋 Kuniyoshi Nakai 仲井邦佳 Mari Wataname 渡辺万里 Shizuka Shimoyama 下山静香 Yuji Shinoda 篠田有史 Taji Sililious 森田寺と Kaname Ikemoto 池本かなめ Elena Contreras エレナ・コントレラス Mikel Berradre ミケル・ベラデレ Jesús Martín ヘスース・マルティン Jesús Martín へスース・ Misaki Ueno 上野美咲 Mai Fukudome 福留麻衣

ADELANTE Co., Ltd 2FL. Chiyoda Bldg. West Annex 2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka 530-0001 Japón

有限会社アデランテ 〒530-0011 大阪市北区梅田2-5-8 F代田ビル西別館2F Fax: 06-6110-5122 email: info@acueducto.jp www.acueducto.jp

<u>本誌の無断</u>複写(コピー)は著作権法上での例 外を除き、禁じられています。 本誌の内容および広告に関しては、発行元の責 任の限りではありません。







Colaboradores:





































MARBELLA









VEN AL COLEGIO DELIBES... ; SALAMANCA TE ESTÁ ESPERANDO!

コレヒオ デリベスにお越しください。 サラマンカがあなたを待っています!



コレヒオ デリベスでは・・

- 個人カウンセリングや希望に応じた柔軟な対応
- 14種類にも及ぶインテンシブコース(1日4~6レッスン)
- レベルは全14レベル
- 学生は若者からシニア層まで40ヵ国の国々から
- クラスの人数は最大10名
- 学校が厳選した滞在先(ホームステイ・学生寮・シェアアパート・個人用アパート・ホテル)
- スペイン文化やスポーツなど様々なアクティビティを提供
- エアコン完備の26教室と図書室
- スペイン料理教室



Colegio Delibes Avda. Italia, 21 37007 Salamanca. España

Tfno: +34 923 120 460 Fax: +34 923 120 489 www.colegiodelibes.com delibes@colegiodelibes.com



和歌山県知事からのメッセージ

Mensaje del Alcalde de Walayama



和歌山県とスペイン・ガリシア州は、それぞれの聖地へ通じる「熊野古道」と「サンティアゴへの道」を有する地域であることから、1998年に姉妹道提携を締結しました。

世界遺産登録された巡礼道を有する 唯一の提携先として、これまで両県州は 様々な分野での交流を積み重ね、西洋 と東洋という地理関係、宗教、文化の違 いを越え、絆を強化してまいりました。

2010年からは、青少年同士の交流や文化体験を内容とした、将来グローバルに活躍できる人材を育成するための交流を行ってまいりました。 また、2012年には、経済及び観光、文化面での相互協力を進めるため に、友好関係と連携強化に向けた覚書を締結し、両県州の関係をさらに 密接にすることができました。

本年は、慶長遺欧使節団派遣から400周年の節目にあたり、日本・スペイン両国で様々な行事が行われております。本県では5月にガリシア州へ副知事を代表とした文化交流団を派遣し、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂で和歌山の伝統文化、精神文化を紹介しました。また今回の訪問にあわせ、巡礼の聖地を有する田辺市とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市との間で観光交流協定の締結が行われたところです。

今回の訪問が大きな節目となり、今後の両県州、ひいては日本・スペイン 両国の交流がより一層活発に発展していくよう努力を重ねてまいります。

和歌山県知事 仁坂吉伸





和歌山県とスペイン北西部に位置するガリシア州は、それぞれ"道の遺産"による姉妹道で結ばれています。和歌山県には1000年以上の歴史を持つ「熊野古道」があり、2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として熊野三山、高野山、大峰とともに世界遺産に登録されました。近年は、祈りと癒しの道として世界中に紹介され、海外からの観光客も増えています。

一方、ガリシア州にはローマ、エルサレムと並んでキリスト教の三大聖地とされるサンティアゴ・デ・コンポステーラがあり、1000年以上の歴史を持つ聖地への道は「サンディアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路」と呼ばれており、1993年、世界遺産に登録されています。

和歌山県とガリシア州は、1998年に姉妹道提携して以来、観光・経済・ 文化・学術など多岐の分野に渡る交流を進めてきましたが、2010年から は青少年の相互派遣を継続的に行っています。

和歌山県へガリシア州の青少年を受け入れる際は、ガリシア州内の18 歳から30歳までの青少年青年が和歌山県内に約1週間滞在し、熊野古 道散策、学校訪問、和太鼓や蒔絵などの文化体験、みかん狩り、ホームステイなどさまざまなプログラムを通じて、和歌山への理解を深める内容となっております。美味しい地元素材を使った料理や豊かな自然、温泉といった和歌山県の地域資源を堪能できるプログラムとなっています。

一方、和歌山県の交流団がガリシア州を訪問する際は、事前研修を経た後、約1週間ガリシア州内に滞在します。「サンティアゴへの道」やサンティアゴ・デ・コンポステーラ旧市街、大聖堂など世界遺産の見学、学校訪問、ホームステイなどガリシア州政府が用意した多彩なプログラムを通じ、交流を深めることになります。

プログラムの一番人気は、ホームステイです。言葉の壁をもろともせず、 文化や習慣の違いにとまどいながらも、たくさんのことを語り合い、学び、 いつしか"第二の家族"のような存在となって、涙の最終日を迎えることに なります。

この青少年交流がプログラム参加者一人一人の心に深く刻まれ続けており、帰国後も当時出会った方々はとの交流は絶えることなく継続されています。



姉妹道提携の経過

1998年10月 和歌山県とスペイン・ガリシア州との間で姉妹道提携を締結

2004年7月 熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録

2005年6月 和歌山県田辺市で「第8回日本スペインシンポジウム」を開催

2007年9月 ガリシア州革新産業省大臣を団長とする訪問団が和歌山県を訪問 両巡礼道の活用と国内外に向けた共同プロモーションの実施につ いて合意

2008年5月 和歌山市で「サモス巡礼の精神」ルイス・オカーニャ写真展を開催

9月 和歌山県、東京、パリ、ガリシア州で国際観光共同プロモーション事業を開始

10月 ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラ市で「第11回日本スペインシンポジウム」を開催

和歌山県内の企業11社を含む訪問団がスペインを訪問し、マドリッドなどでプロモーションを実施

田辺市熊野ツーリズムビューローとサンティアゴ・デ・コンポステーラ 市観光局が提携、共同プロモーションを開始

2012年7月 仁坂知事がガリシア州を訪問し、ガリシア州政府との間で「和歌山 県とガリシア州の友好親善関係と連携強化に係る覚書」を締結

2014年5月 下副知事を代表とする文化交流団がガリシア州を訪問し、和歌山 文化プロモーションを実施

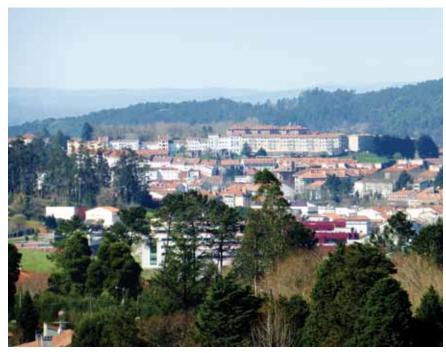
> 田辺市とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市との間で観光交流協定 締結

出発の日~いよいよスペインへ

2014年3月7日、ガリシア州への青少年交流 代表団、12名が期待に胸を膨らませながら、スペイン行きの飛行機に乗り込んだ。

16歳から30歳の12名の中には、スペインはおろか、初めて海外に行くという参加者も含まれていた。団員は和歌山県やガリシア州の理解を深めるため事前研修を2回受け、成果をまとめた「しおり」を持参、現地ではガリシア州の視察、ホストファミリー宅での滞在など楽しみな反面、コミュニケーション面などに不安を感じながらの出発となった。

関空から旅立った飛行機は、イスタンブールでの乗り継ぎを経て、一路サンティアゴ・デ・コンポステーラ市へ。到着した日は、快晴。今年に入って数日を除いて連日雨(しかもかなり被害が出た程の降雨量)が続いていたそうで、ガリシア人たちに会う度、「なんてラッキーなの!毎日雨で大変だったのよ。」と言われた。もともと雨の多い地方だが今年は特別だったらしい。我々を歓迎してくれるような空模様に団員達も、これから起こることへのワクワクが隠せない様子だった。



サンティアゴ・デ・コンポステーラの町並み

ア・コルーニャの視察

滞在2日目は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ市から、バスで1時間程度のところにある、大西洋に面した都市、ア・コルーニャに移動。

ア・コルーニャの旧市街地は"旧市街地"のイメージはなく、むしろ栄えており、訪れる人々で溢れていた。

石畳の上に石造りの建物の商店が立ち並ぶレアル通り(この日は日曜日で残念ながら多くの店が休みだったが…)マリア・ピタの像と市庁舎のそびえたつマリア・ピタ広場には遊び回る子供たちや休日を楽しむ家族の姿を多く見ることができた。

古い建物から成る統一感のある街並みと主 張しすぎない商店の織り成す景観はとても美し いものだった。

バスで10分ほど移動した展望台(というよりは丘の上)から、大西洋を眺めることができた。 午前中に訪れたヘラクレスの塔を含め、ア・コルーニャの街を一望できる、とても景色の良い場所だった。

丘の上が公園にもなっており、こちらも子供を連れた家族、カップルやグループでにぎわっていた。ここは、1929年の戦争時の武器の試験場でもあり、現在は大砲のレプリカなどが置かれている。







写真右上:マリア・ピタ広場 左下:旧市街を散策。この日は日曜日で営業している店はあまりなかったが、のんびりと街を見学することができた。 右下:大西洋を見下ろすことのできる海岸。天気がよく、遠くの景色までよく見えた。

ガリシア文化都市からサンティアゴ 巡礼の道、サンティアゴ・デ・コンポス テーラ市内へ

サンティアゴ市郊外にあるガリシア文化都市。 アメリカの著名な建築家ピーター・アイゼンマン が設計した、超近代的なデザインの総合文化施 設で、斬新な中にも花崗岩などを各所に使った 「ガリシアの特徴と伝統を生かした文化都市」 を造り出している。デザインの美しさに感動しな がらも、この広大な敷地と建物の機能について 考えさせられた。

その後、サンティアゴの道へ。昨年6月に皇太子殿下が歩かれた道と同じ道を歩くことが出来た。天気にも恵まれ、鳥のさえずりが聞こえるのもすがすがしかった。

サンティアゴの道とは聖ヤコブの亡骸がある サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂を終着 点とする巡礼の道で、多くのルートが存在する。 徒歩に限らず、馬や自転車などの乗り物での巡 礼もでき、道路沿いの看板がそのことをよく示し ている。道中の看板や道端の道しるべには、シ ンボルであるホタテガイや黄色の矢印が刻まれ ているだけでなく、道端の石や道路上など随所 にも黄色の矢印があり、その細やかさに驚いた。 その後、少し足を延ばして歓喜の丘を見学。 ここは、巡礼の道の中で初めて目的地であるサンティアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂が見える場所。長い長い巡礼の道を乗り越えて、壮大・荘厳な大聖堂が見えた瞬間の喜びが想像できる。

現在この丘には、当時の巡礼者のモニュメントが立っているのだが、その他に思いがけなくスペイン・日本交流400周年記念の碑もあり、私たちに驚きと喜びをもたらしてくれた。

ふたつの意味で歓喜できた丘だった。

昼食後、サンティアゴ旧市街地を訪れた。石 畳の続く小径を歩いていると、まるで中世ヨーロッパかローマ時代にタイムスリップしたような気 分になる。また、築300年、400年の建物が、アパートや洋服屋、カフェなど今でも変わらず生 活の一部として使われていることにも驚いた。

広場にあるカフェのテラス席では、太陽の日差しを浴びながら、ワインを片手に友人との会話を楽しむ人々が多く見られ、日本よりもゆったりした時間の流れを感じた。

旧市街の見学を終え、いよいよ大聖堂に近づくにつれその大きさと迫力に圧倒された。建物の細部まで手の込んだアートワーク、きらびやかな内装。巨大なオルガンパイプ。費用と労力がかかっていることは一目で分かる。

中世ヨーロッパでは、教会と学校が同じ敷地内に置かれていたそうだ。それで現在も、スペイントップクラスの大学が同じ広場にある(つまりカテドラルから独立した)。日本では人口9万人の小さな町に総合大学などありえない。

ミサの時間ではなかったからか、思ったより 参詣者はまばらだったが、1000年以上前から 多くの巡礼者が目指して来た大聖堂。日本で見 慣れた神社や寺院にはない非常に興味深いも のがあった。ミサが行われる大ホールの両端に 黒いカーテンに覆われた告解室があった。

この日最後に訪れたサン・マルティン・ピナリオ修道院は、サンティアゴ市内では大聖堂に続いて2番目に大きい宗教建築。見事なファサードが印象的だった。







写真左: サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂。残念ながら一部が修復工事中であったが、荘厳な佇まいだ。 右上: サンビ・マルティン・ピナリオ修道院。 右下: ガリシア文化都市。

州政府表敬訪問

翌日は朝から州政府訪問を控え、参加者は 全員制服またはスーツを着用した。

バスを一度乗り換えて、到着した州政府の建物は、大聖堂近くにある石造りの建物とは異なり、円筒状でかなり近代的であった。黒く大きい長机のある部屋でしばらく緊張しつつ待っていると、厚生労働省大臣のベアトリスさんと、青年ボランティア局のオビディオさんがやってきた。

大臣は、派遣団では唯一の男性である中岸さんを見て「たくさんの女の子に囲まれているから王様みたいね」と言ったり、常に笑顔で接してくれ、私たちの緊張を解いてくれた。この日は予定が詰まっているらしく、短い時間であったが、ガリシアの人々に歓迎されているということを、さらに感じることができた訪問だった。

余談だが、スペインでは制服、スーツを着ることはあまりないそうだ。日常的にスーツを着る人は主に人に会ったり、重要な仕事をしたりしている人だけらしい。州政府で働いているアナさんもその日ジーンズを履いていた。「デスクワークが基本だから、毎日こんな感じよ。」とのこと。



州政府表敬訪問の様子。 普通ではなかなか入れる場所ではないこともあり、緊張気味の派遣団員たちだったが、 州政府の方々の気さくなで温かな対応が印象に残っている。

巡礼博物館~インターナショナルディナー

訪問を終えて、巡礼道博物館に向かう。中でも最も興味を惹かれたのは、唯一日本語で書かれた展示品、池田宗弘さんによる「巡礼の道絵巻」であった。フランスの道全ルートを絵巻物風に絵地図として書いている作品であり、美しい挿画はもちろんのこと要所に詳しい解説が書かれており実際に歩いて体験された池田さんの努力の結晶であろうと思った。また展示され見ることができたのは原本の数ページであったが、全容はデジタル化されタッチパネル式の画面で見ることができ、その精密な挿絵を時間がある限り眺めていたいと思った。そしてサンティアゴ巡礼の道の姉妹道である熊野古道を歩く際に使われたであろう草履など、和歌山にゆかりあるものが展示されており非常に親近感を覚えた。

夜は、日本にいる時から企画していたインターナショナルディナーが開催された。スペインと日本からの参加者が自国ならではの簡単な食事を出し合い、立食会を行った。スペイン側は生ハムやムール貝、タコなどガリシアならではの食事を用意してくれた一方、日本側は外国にも日



本の食べ物としてよく知られているおにぎりや 味噌汁など数品を出した。食事はどれもおいし く、話も、食べ物の話から話題を広げ、どんどん と交流を深めていくことが出来た。

また、食事が終わった後にスペインの方たちに日本の伝統文化の一つである浴衣に袖を通してもらった。着付けをするのは、もちろん派遣団である。日本独特の和柄が施された浴衣や帯の柄は好評価で、帯占めの際にはどのようにしているのか食い入るように見ていた。最後に下駄をはき、手を前にして嬉しそうに記念写真をとっていたのが凄く印象に残っている。

最後に、お互いの国の歌を歌いあって、無事 インターナショナルディナーが終了した。

事前に色々考え、試行錯誤した結果ではあるが、これほど好評をえられるとは想像していなかっただけに、大きな満足感に包まれた。また、食事を通した交流で、日本とスペインの違いがよりよく分かったし、大変興味深かった。これからもっと日本にしかない良さをスペインのみならず、世界に伝えていきたいと感じられる時間となった。









インターナショナルディナーの様子。 自国の食べ物や文化を紹介するだけでなく、スペインの文化を理解する良い機会となった。

学長訪問、そして大学交流

翌日は、和歌山大学観光学部代表の藤田さんがサンティアゴ大学学長のフアン・ホセ氏に 挨拶を行った。今後を視野にいれ、学術交流等 を通して大学間の交流を深めていきたいといったことも話題になった。

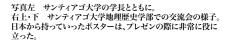
その後、サンティアゴ大学地理歴史学部との 交流会が行われた。

まずはスペイン側のプレゼンテーションが行われた。ガリシア州の人口、面積といった基本情報から、経済状況、州を構成する4つの県やそれぞれの特徴、名産品などについて、こちらの目を見ながら表現豊かに説明が行われたことが印象的だった。

これに対し、日本側も同様のテーマでプレゼンテーションを行ったのだが、事前に日本から 用意して行った名産品やポスターなどを使い、 日本や和歌山を身近に感じて貰えたのではないかと思う。

その後5人~10人の4つのグループにわかれて各テーマ(都市、音楽、道、食)についてグループディスカッションを行った。また各グループがどのような話をしたか発表し、理解を深めることができた。









再会を約束して~帰国

大学でのプレゼンテーションを終え、その日の夜からそれぞれのホームステイ先に向かい、約3日間、ホストファミリー宅で過ごした。基本的には参加者二人で一組となり、ホスト宅にお世話になった。ホストファミリーとは英語、またはスペイン語のみでのコミュニケーションとなり最初はかなり緊張した。

しかし、ホストファミリーは去年の7月に和歌山を訪れた若者なので共通の話題があり、今回のガリシア訪問中に所々、交流に参加していたので、全くの初対面という家族はいなかった。言葉による苦労もあったが、ホームステイを一番楽しみにしていたこともありそれぞれが準備した方法で、ホストファミリーとなってくださった方々との絆を深めることが出来た。

最終日には、ホストファミリーとの別れがつらく、自然と涙がこぼれた。帰国するのがつらくて、疲れているにもかかわらず、関西空港に到着してもすぐに自分の家ではなくて、スペインに戻りたくて仕方がなかった。帰国後もEメールやSNSなどを使って交流を続け、友情を深めている。

日本から遠く離れたスペインに滞在し、1週間という短い間ではあったが、その土地の人々との交流を通じて、多くの素晴らしい経験をすることができた。

本当の家族のように温かく受け入れてもらい、

同じものを食べ、見て、たくさん笑った。この滞 在中に感じたことが、将来、国際人として活躍す る礎となると思っている。

今年8月に、またガリシア州から青少年交流 団が来ると聞いているので、今回の経験を活か して、私たちがガリシアの人に受け入れてもらっ たように、彼らを心からおもてなししたいと思っ ている。

☆和歌山県では、今年8月にも、ガリシア州から の青少年交流団の受け入れ事業を予定する など、今後も様々な交流事業を企画している。



和歌山県とガリシア州の青少年交流の経過と今後の予定

2010年12月 和歌山県青少年交流団派遣(第一回) 2012年 1月 ガリシア州青少年交流団来県(第一回) 2012年 3月 和歌山県青少年交流団派遣(第二回) 2012年10月 ガリシア州青少年交流団来県(第二回) 2013年 3月 和歌山県青少年交流団派遣(第三回) 2013年 7月 ガリシア州青少年交流団来県(第三回) 2014年 3月 和歌山県青少年交流団派遣(第四回) 2014年 8月 ガリシア州青少年交流団来県予定(第四回)

スペイン・ガリシア州への青少年代表団派遣に参加して

スペインの文化に直接触れたい、海外でホームステイをしてみたい、自分の英語力やスペイン語力を試したい、など様々な理由から、この交流に応募した代表団員ですが、研修が修了し、どんな感想を持ったのでしょうか。

団員の感想の一例をここに紹介します。

今回参加させていただいたガリシア研修の

10日間の有意義な時間はいままでにない大変

貴重な経験となりました。とくに現地の方から言

葉の壁を越えた温かいおもてなしは言葉で表す

ことのできないくらいの喜びでもあり感動でもあ

今回の旅を実際に経験して痛感したのは自

分の語学力の未熟さでした。自分の持てるコミ

ュニケーションスキルを駆使してみたものの思

うような意思の疎通が計れなかったため自分の

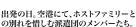
気持ちが後ずさりしたのも確かでした。思うにそ

れは頭の中で言語コミュニケーションだけが前

面に突出してしまい、自分の中で難しくとらえて

普段は、どちらかというと自分の中で得意とし

りました。





先のホストファミリーの優しさでした。ホストマザーは英語が話せなかったため、言葉での意思疎通は難しいものでした。そのかわり、いつも私を思いっきり抱きしめてくれました。そのハグには言葉を越えた温かさや愛情がとても伝わってきました。言葉の壁というものは確かに存在しますが、非言語コミュニケーションの方が相手の気持ちや思いがより深く伝わるのだと実感しました。

豊かな緑や自然が多く、歴史が感じられるガリシアの町並みや景色はどれも日本とはまた異なる素晴らしいものでした。その中でも海岸から見た広大な大西洋とその上に広がる青空を見たときは思わず息をのむ美しさで感動し、大海原の開放感にひたることで、日頃の私の悩みがちっぽけなものに感じました。

いまの私は17歳の混迷期の真っただ中とも思えます。

自分の歩むべき道を自分自身で一つずつ選択し、決定するという自立への足がかりへの難

2013年 和歌山県青少年代表団

団 長 太田真里亜 (和歌山大学) 副団長 中岸賢太(熊野福祉会)

> 尾崎美和(田辺高校) 河野恵実(那賀高校) 喜多美月(日高高校) 北野桃子(那賀高校)

木村有沙(日高高校) 山﨑夏美(田辺高校) 絵王を用(田辺高校)

輪玉衣里(田辺高校) 石橋加菜(愛知県立大学) 漆畑加那(和歌山大学) 川村日向子(和歌山大学)

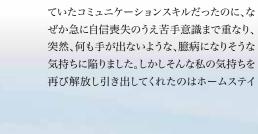
引率者 藤田友里佳(和歌山大学) 引率者 中村貴子(和歌山県庁)

しいプロセスを自らの力で進まなければいけないという不安も大きい時期に、いままで机上の知識でしかなかったヨーロッパの異文化に触れ、初めて出会う異国の人々との交流を、短期間とはいえ深められたことなど、数多くの思い出はきっと今後の自分自身への自信や励みになることと確信できました。

私は以前から学生のうちに憧れである欧米 にいつかは行きたいとずっと夢に抱いていました。高校1年生のころから学業の傍らファースト フード店でアルバイトを少しずつ行い、いつか自 分の夢が実現できることを願ってこつこつとお 金を貯めてきました。

このような機会に恵まれ、沢山の仲間と和歌山県の研修プログラムに参加できました。スペインでの貴重な経験は私の今後の人生の土台となって行くことでしょう。

田辺高校2年 尾﨑 美和



しまっていたからかもしれません。





7月5日(土)·6日(日) 京都外国語大学

最寄り駅:阪急電車「西院駅」

「見て」「聴いて」「食べて」スペインを知る、 京都にいながら、まるごと スペインを味わえるイベント



スペイン往復航空券が 当たる抽選もあります!







取材でボデガを訪れるときには1人で行くことが多いのですが、たまたま今回は、スペインに住んでワインビジネスに関わっている日本人女性 H さんと知り合ったので、彼女の案内でボデガを訪問することになりました。何しろ今回の訪問はボデガの取材というよりエノツーリスモの取材ですから、一観光客になったつもりでボデガ見学を楽しめばいいのです。

しかも今回訪問するボデガは特に見学に力をいれていて、その値段も 38 ユーロだと聞きました。ワインを味見するのに約 6 千円? いったいどんな見学をさせてくれるのかと興味津々で、私は H さんと待ち合わせたバジャドリードへと出かけていきました。

リベラ・デル・ドゥエロは、押しも押されぬ高級赤ワイン産地として、スペイン中に広く知られています。歴史を遡るなら一番古い高級ワイン産地は、フィロキセラという害虫の発生のせいでボルドーから流れてきたワイン職人たちによって、いち早くフランス流のワイン醸造を取り入れることができたリオハですが、そのあとを追うようにして知名度を上げたこの産地は、独特のフルーティで華やかな印象を持つ赤ワインがスペイン人の嗜好をとらえ、今では人気ワイン産地としてすっかり定着しています。

一昔前には、レストランやバルで少し上等のワインを頼むときの代名詞が「リオハのワインを」であったのが、いつのまにか「リベラ・デル・ドゥエロを」と注文する人々も多くなって来ました。それに元々、このリベラ・デル・ドゥエロは、昨今の超高級ワインたちが現れるずっと前から並外れて高価なワインが存在した地方でもあります。若い時の華やかさが大きな魅力であるため、長く

熟成させずに早く売ってしまうメーカーが多い一方で、最近はしっかりと作り込んだワインを発表するボデガも増えて来て、ますます魅力を増して来ている産地といっていいでしょう。

澄んだ空気が冷たいバジャドリードの朝を出発した H さんの車は、次々とブドウ畑を通り過ぎながら南西へと向かいます。リベラ・デル・ドゥエロは、名前のとおり、カスティーリャ・イ・レオン地方を東西に流れるドゥエロ川沿いに広がるワイン産地です。川がソリア県からブルゴス県を経てバジャドリード県へ、さらにはポルトガルとの国境へと横長に流れているので、ワイン産地そのものも東西に長く広がり、いくつもの地域に散らばった生産ゾーンから成り立っているのが特徴です。今日の目的地のボデガはペニャフィエルという町の外れにあり、産地全体からみれば比較的ポルトガル寄り、つまり西よりの地帯に位置しています。

ペニャフィエルも、小さいながらリベラ・デル・ドゥエロのなかの重要な拠点のひとつ。町の中央の小高い丘には中世の城がそびえていますが、その城は今ではワイン博物館となっているほどです。私は以前、この町で食文化フォーラムが開かれた時に招かれ、そのついでにワイン博物館のなかでのテイスティングを体験させてもらいました。大きな船のような独特の形の城が、外観とは対照的に内部は見事に近代化され、空調の効いたおしゃれな空間として生かされていたことを覚えています。町そのものも、さすがワイン産地のまっただ中にある町らしく、ワインを売る店やバルも魅力的。時間のある方なら、この古い町をぶらよう。

写真:ペニャフィエルの町並み。のんびりと散策 するのにぴったり。





ボデガに到着すると、セニョリータに案内されて、まずはブドウ畑を見下ろすテラスへ。この時期に畑で働いている人はそれほど多くありませんが、それでも木の手入れをしているグループがいくつか見受けられます。ワイン造りとは、まず何よりも農業なのだと感じさせてくれる光景です。独特の刈り込み方で葉や果実のない今はオブジェのようにも見えるブドウの木が、遠くに城をのむなだらかな斜面に遠くまで広がっています。「ホセ・マリアはセゴビアでレストランを経営していましたが、ソムリエとして賞をとったのがきっかけで自分のレストランのためのワインを作りたいと考えるようになりました。そして色々探

ボデガの名前であるカラオベハスとは、元々このあたりの斜面が羊の群れの通り道であったことから、そう呼慣らわされてきた地名だそうです。 水はけの良い斜面がなだらかに続き日当りも良く、今でも羊の群れが好んで通っていっても不思議の無いロケーションです。

し調べた結果、この地域に目を付ました・・・」

リベラ・デル・ドゥエロのワインといえば普通 赤ワインを意味し、それに使われるブドウは大部 分がティント・フィーノ。これはスペインを代表 する黒ブドウであるテンプラニージョの亜種で、この地域でもボデガによってはテンプラニージョ と呼ぶところもあり、もうひとつの名前である ティンタ・デル・パイスを使う会社もあります。 どの呼称を使うかというところにも、それぞれの ボデガのワイン造りに対するスタンスが現れてい るように思います。このボデガはティント・フィー ノと呼んでいて、そのブドウを中心にいくつかの 外来種も加えて、独自のワインのための畑を構成 しています。





写真左上:ワイン畑の向こうにお城が見える 右上:ぶどうの木 右下:ボデガの入り口。 左下:ボデガの内部。ワイン畑を一望できるモダ ンなテイスティングルーム。





清潔で整然としたボデガの内部の案内は、取り入れたブドウが運びこまれるところから、大きなタンクの並ぶひんやりしたゾーンへ、研究室やオフィスのあるゾーンから熟成させるカーブへときちんとお膳立てされていました。珍しいと思ったのは、従業員の休憩するサロンや食堂まで見せてくれたことでしょうか。日さんによると、このボデガは従業員の待遇が良いことで知られ、やめて行く人が少ないと評判なのだそうです。レストラン出身のオーナーの知恵が、そういうところにも生かされているのでしょう。

しかし何と言ってもびっくりしたのは、カタ(テイスティング)と一緒に出されるタパスでした。見学者のためにチーズやオリーブなどをちょこっと出してくれるボデガはありますが、ここではきちんと手をかけたレストランなみのタパスがワインに合わせて出てきます。レストランと直結していることのメリットが、最大限発揮されているのです。

最初の試飲のタパスは、オルナソというサラマンカ名物のパイの一種で、中にゆで卵とチョリッソがはいったもの。そしてワインは、ホセ・マリアが、自分のレストラン用に作ったアウトール(作家)という、ホセ・マリアのレストランかボデガでの試飲でしか飲めないというワイン。まだ若くワイルドな印象のあるワインの、いかにもリベラ・デル・ドゥエロらしいフルーティな香りと、薄く繊細に仕上げたパイ生地の香ばしさがよく合います。

そして2番目の試飲は、このワイナリーの中心的なワインと言っていいクリアンサ (一定期間オーク樽での熟成をかけたワイン)と、それに合わせたごく若い仔羊のコンフィ (低温のオリーブ油のなかでゆっくり加熱する調理)。これも文句なしの組み合わせで、コンフィに載せられた地物のキノコも、華やかに熟成しつつあるワインのしっかりした味わいを引き立てています。

そして最後は、いよいよレストラン「ホセ・マリア」名物のコチニージョ・アサード(乳飲み仔豚のロースト)と、「野ウサギ坂」と呼ばれる最上の畑からの収穫だけで作られる特別なワイン。見学コースの最後に位置する明るいテイスティングルームで、うやうやしくワインを抜栓してくれるところから、もう期待が膨らみます。そのワインのコルクには私の名前を書いて、今日の記念にプレゼントしてくれるという細やかなサービスまでついています。

ぱりっとした皮としっとりした肉のコチニージョは、セゴビアのレストランで食べる時にも劣らない香りと質感。ワインもこのクラスになると完成度が高く、洗練された印象のなかにリベラ・デル・ドゥエロのアイデンティティともいうべき力強さが同居して見事なバランス。この見学費用は決して高くない、十分に支払う価値があると実感させてくれる試食と試飲でした。

もちろんテイスティングだけでなく、見学でも 色々と収穫がありました。樽のセレクトからコル クのセレクトまで、きちんと科学的なプロセスで 行われている。特に収穫率の良い苗のクローンを 作って、実験栽培している。優れた働きをする発 酵酵母を選別して、乾燥させることに成功してい る、乳酸菌は特にヒスタミンを抑える効果のある ものを培養している・・・。すべてを通して感じ られたのは、このボデガがより優れたワインを作 るために、様々な角度から投資しているというこ とでした。

「どんなにお日様がよく照って、黙っていても ブドウが熟するような恵まれた気候でも、そのま まで高級ワインが出来る訳ではない。手間暇をか け、最新の技術を駆使し、さらに研究を重ねなく





写真左:木の香りも鮮やかなフレンチオークの新樽が並ぶ、ひんやりとした酒蔵。 右上:ここでブドウ液がしぼられて、清潔なタンクへと移動。ワイン作りのプロセスがしっかりと見学できる。









写真左上:最初の若いワインに合わせて、 サラマンカ名物のパイ、オルナッソ。 左下:2番目の熟成したワインには仔羊の コンフィ。

右上:3 杯目の高級ワインは、コチニージョ (仔豚のロースト) とともに。 右下:ボデガを訪れた人の名前とその日の 日付をコルクに書いてプレゼントしてくれ るのも良い記念となる。 写真下: 笑顔で迎えてくれるボデガの人々。

ては、これからの時代のワインは作れない・・・。」 そういうことを、スペインのワイン造りの世界 の人たちがしっかり認識するようになった。だか らこそ、こういう贅沢なボデガが出来、さらに素 晴らしいワインが生まれつつある。スペインは先 の見えない不景気かもしれないけれど、こういう 底力があるのなら、まだまだ捨てたものではな い・・・。そんなことを、ボデガに働く人たちの 確信に満ちた笑顔が感じさせてくれた嬉しいひと 時でした。

ボデガ見学が終わって出てくると、Hさんが「さ あ、昼食に行きましょう」と言います。そうだった、 今日は見学のあとでランチに行く予定なのでし た。ボデガでのワインとタパスにすっかり満足し てはいるけれど、ここまで来て仔羊を食べずに帰 るのはもったいない、と食いしん坊の私は思って しまいます。ドゥエロ川流域は優れたワイン産地 が連なっているだけでなく、最高の仔羊が育つ地 域でもあるのです。そして私は常々、「日本でど うしても食べられないスペインの美味があるとし たら、それはコルデーロ、つまり仔羊のアサード (ロースト) だ」と断言している人間です。毒を 食らわば皿まで! 車は、トラスピネードという 聞いたこともない小さな村へと向かいます。ここ に、Hさんおすすめの「串焼き仔羊」があるのです。

気取らない構えのメソンにはいっていくと、地 元の人たちが料理満載のテーブルを囲んでいてに ぎやかです。普通、コルデーロ・アサードという のは仔羊を大きなブロックのままで焼きますが、 ここでは小さく切って、まるで焼き鳥みたいに串 に刺して焼きます。その串がたっぷり 40 センチ 以上はある長さで、炭火の上で盛大に煙を上げて います。この串1本が1人前らしいけれど、かな りの量です。

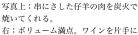
まずはテーブルに、どんと出されたワインに感 動。さすがワイン産地のまっただ中の村だけあっ て、店の構えからは想像できないような高級なワ インがポンと出てくるのです。次いで出て来た羊 のチーズは適度に熟成したいい匂いだし、土鍋で グツグツ煮たチョリソも食欲をそそる。パンも、 このあたり独特のもっちりとした大好きなタイ プ。そして、いよいよ巨大な鉄串がテーブルに運 ばれてきて・・・。

この記事を読んで、同じコースを回りたい、と 思っている方にアドバイス。どうぞ十分にお腹を 空かせて出発してください。そして、美味しくて 勉強になるエノツーリスモの旅を、心ゆくまで満 喫してください。

文・写真 渡辺万里







ゆっくり時間をかけて楽しみたい。





渡辺万里

わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。

1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。 1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開設。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイ ン文化の紹介に携わっている。早稲田大学文化構想学部非常勤講師。

著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」(日本文芸社)、「修道院のうずら料理」(現代書館)、「スペインの竃 から」(現代書館)など。

スペイン料理文化アカデミー http://academia-spain.com 〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2 TEL: 03-3953-8414 スペイン料理クラス、スペインワインを楽しむ会、フラメンコ・ギタークラスなど開催

INFORMACIÓN

♣ 今回訪れたボデガ

Pago de Carraovejas

住所: Camino de Carraovejas, s/n, 47300 Peñafiel, Valladolid, España

電話: 34 983 87 80 20

http://www.pagodecarraovejas.com

◆ エノツーリスモ案内先のご紹介

BUDO YA

担当者:人見 典江

メール:info@budoya.jp

ホームページ:http://www.budoya.jp/

拠点:バジャドリード

バスク美食倶楽部

担当者: 山口純子

mendiohea@yahoo.co.jp

ホームページ:

http://vascubishokuclub.blog76.fc2.com/

拠点:サン・セバスティアン

スペイン・バスク地方を代表する微発泡ワイン

El País Vasco

チャコリ Txakolí

バスク地方の伝統を受け継ぐチャコリとは

スペインの北側には大西洋に続くカンタブリア海があり、古くから漁に出る生活をしてきました。スペインといえば、イベリコ豚の生ハムや子豚の丸焼きなどに代表されるように一般的に肉を主食とする傾向がありますが、北スペインのカンタブリア海に面している地域にはたくさん漁港があり、漁業や水産業に携わる人たちが多くいます。豊富な魚介類を食べる習慣があり、地元の伝統的な料理には鯛やイワシの魚の炭火焼やアンチョビーのオリーブオイル漬けやアサリの漁師風などシーフードを使った料理が多く見られます。かつては捕鯨のため漁に出ていたという記録も残されています。(ただし、目的は鯨肉ではなく鯨油でしたが。)

ところで、バスク地方の地元の人々にとって欠かすことのできないチャコリとはなにかご存じでしょうか? グルメたちが集うバスク地方の食文化には必ずなくてはならない地ワインです。

チャコリとは、バスク自治州でのみ生産されるバスク地方土着のブドウ品種を使用したフルーティで若々しく爽やかな酸味を特徴とする微発泡白ワインのことです。アルコール度数は9.5%から11.5%。ぶどう農園で収穫されたブドウはすぐに醸造所に直行します。ステンレスタンクで5日間から30日間、低温発酵させた後、澱引きせずにそのままタンクの中で数ヶ月休ませます。その間に発生する微炭酸が爽やかな酸味を生み出します。

チャコリに使用される土着ブドウ品種は白と赤の2種類。オンダリビ・スリ(Hondarribi Zuri)とオンダリビ・ベルツァ(Hondarribi Beltza)。バスク語で呼ばれています。現在、白ブドウ品種であるオンダリビ・スリがブドウ畑のおよそ95%を占め、黒ブドウ品種のオンダリビ・ベルツァはわずか5%です。従って、現在醸造されているチャコリのほとんどが微発泡の白ワインです。



スペインワインはスペインの原産地呼称(D.O.Denominación de Origen)法に基づき、現在72地域が認定されています。チャコリのD.O.として以下の3地域が現在、原産地呼称統制委員会(Consejo Regulador)によって管理・運営されています。

- ① D.O.チャコリ・デ・ゲタリア / ゲタリアコ・チャコリナ (D.O. Chacolí de Getaria=Getariako Txakolina)
- ② D.O.チャコリ・デ・ビスカイア / ビスカイコ・チャコリナ (D.O. Chacolí de Bizkaia=Bizkaiko Txakolina)
- ③ D.O.チャコリ・デ・アラバ/アラバコ・チャコリナ (D.O. Chacolí de Álava=Arabako Txakolina)

①はカンタブリア海に面し、バスク自治州の西側でフランス国境と接する地域のギプスコア県(Guipúzcoa)、②はバスク自治州の中央に位置するビスカヤ県(Vizcaya)、③はバスク自治州の東側で内陸部のアラバ県(Álava)で醸造されています。原産地呼称はスペイン国の公式言語であるスペイン語<カステリャーノ(Castellano)>とバスク自治州の公式言語であるバスク語が併記されています。これら3つのD.O.の中で、とりわけ「チャコリ・デ・ゲタリア=ゲタリアコ・チャコリナ」のチャコリは秀でた酸味が高く評価され、シーフード用ワインとして世界のベストワインのひとつに数えられます。

D.O.チャコリ・デ・ゲタリアのチャコリはカンタブリア海からの風を感じながら育てられたブドウから作られます。北大西洋に続くカンタブリア海は地中海のように穏やかな内海ではなく、荒波が常に打ち寄せ海岸線は荒々しい力強い波で岩が削られて崖のようになっています。海水浴場に適した遠浅な砂浜などはあまり見られず、海岸線と陸地との高低差が大変大きくなっています。

チャコリを作るためのブドウは海岸線と海を見下ろせる斜面のぶどう農園で栽培されます。スペイン内陸部に比べると、湿度も高く降水量も多く、年間を通じ比較的寒暖の差が少ない気候です。

そして、海からの穏やかな風とミネラル分をたっぷりと含んだ土壌がチャコリの母なる大地。バスク地方





のそんな環境で育ったブドウから醸造される微発泡白ワインが

D.O.チャコリ・デ・ゲタリアの味の源です。

チャコリが地元で漁獲された魚介類ととても相性がよいのは言うまでもないでしょう。更に、秀逸な心地よい酸味を特徴とする上等のチャコリはシーフード用白ワインとして世界的にその価値が高く評価されつつあります。



写真提供:レストラン・エルカノ

チャコリワイナリー 『ボデガ・レサバル (Bodega Rezabal)』

チャコリ・レサバル(Txakoli Rezabal) 〈D.O.チャコリ・デ・ゲタリア〉 のチャコリワイナリー「ボデガ・レサバル(Bodega Rezabal)」はサラウツ(Zarautz)にあります。

ゲタリアのすぐ隣町であるサラウツは夏のバカンスシーズンに 海水浴客などでにぎわうファミリー向けビーチリゾート地となって います。バカンスでにぎわうビーチや海岸線が一望できる斜面に チャコリを作るぶどう畑が広がります。現在、アンデル・レサバル氏 (Ander Rezabal)とミレヤ・オシナガ氏 (Mireya Osinaga) ご夫婦で経営しており、とても小規模なアットホームなチャコリワイナリーです。

> Bodega Rezabal) Rezabal Txakolindegia) Itsas Begi) Asti Auzoa, 628 20800 Zarautz (Guipúzcoa)









お二人はチャコリに魅了されて、当時チャコリワイン業界に携わっていたアンデル氏の両親の跡を継ぎ、両親が既に所有していた農園を相続しました。アンデル氏とミレヤ氏夫妻は30歳の時に畑を耕しブドウの植え付けを開始し、7年後の1996年に収穫されたぶどうから二人にとって初めてのチャコリ「チャコリ・レサバル第1号」がボデガ・レサバルで誕生しました。それ以来、チャコリワインの作り手として二人は「かけがえのない人と共に過ごす大切な時間をチャコリと一緒に楽しんでほしい」という願いを込めて、夫婦共に力を合わせ、丹念にチャコリ造りに取り組んでいます。

チャコリに使用される土着ブドウ、オンダリビ・スリ(Hondarribi Zuri)とオンダリビ・ベルツァ(Hondarribi Beltza)は伝統的に棚仕立てで栽培されます。カンタブリア海に面して東斜面にぶどう農園が作られ、穏やかな海風を感じ、スペイン国内の中で比較的降雨量が高く湿度も高いバスク地方では、風通し、水はけ、日差しなどを考慮して、ぶどうの木は1.8メートルのエンパラード・アルト(emparrado alto)と言われる棚で栽培されています。ボデガ・レサバルで栽培されるぶどうの木は、できる限り手を加えずに、自然そのままの状態を保ちながら栽培されます。それはまるでわが子を過保護に育てぬように、ああしてあげたい、こうしてあげたい、というそんな親心を抑えながら見守ります。なぜならば、この土地で生まれ育った土着のぶどうは、どんな環境にも、たとえ逆境の中でもぶどう自身が生きるすべを学び、更にたくましくエネルギッシュに成長し、素晴らしいチャコリになるとアンデル氏は信じているからです。

バスク人が先祖から受け継いできた伝統、そして海の恵みや気候などそのすべてのエッセンス を詰め込んだもの、すなわち、それこそがチャコリ。バスク人たちにとってチャコリはバスクの誇り の一部と言えるでしょう。

チャコリワイナリー「ボデガ・レサバル」では伝統的な醸造法に基づいてチャコリワインを丁寧に作り上げるかたわら、他のD.O.チャコリ・デ・ゲタリアのチャコリワイナリーとは異なる特徴あるチャコリワインが醸造されます。

アンデル氏によれば、チャコリ・レサバルの特筆すべき点は以下のとおりとなっています。



ロの中で広がる 心地よい まろやかな酸味



高すぎない アルコール度数 (9.5%~11.5%) 比較的 どのような料理にも 合わせられる

アンデル氏とミレヤ氏は長い間先祖から受け継がれたバスクの誇りと同時に今を生きるため 進化するチャコリ造りに日々試行錯誤しながら、精力的に手掛けています。





株式会社キムラ

広島県広島市中区羽衣町13-12 TEL.082-241-6703 FAX.082-241-4375

http://www.liquorlandjp.com

キムラ 酒



マドリードの「8人組」

~ 歴史に翻弄された作曲家たち ~

1930年代は、世界全体が不穏な方向へと大きく舵をきった時代である。長らく不安定な政情が続いていたスペインは、全土を巻き込んだ泥沼の内戦により荒廃し、遅ればせながら国際舞台で認知されるようになっていた「スペイン音楽」も大きな打撃を受けたのだった。

少し時を戻した1920年代のスペインにおいて、「新 しい音楽」を象徴する作曲家といえばマヌエル・デ・ファ リャだった。ピアノ曲《ファンタシア・ベティカ》(1919) で音楽における知性を深めた彼は、さらに《ペドロ親方 の人形芝居》(1923)と《チェンバロ協奏曲》(1926)に より、スペイン音楽の新たな可能性を示す。いずれも、 いわゆる「アンダルシア風」から脱却し、黄金世紀(16 世紀)やゴヤの時代(18世紀)に代表される「カスティ ーソなスペイン」を、ユニヴァーサルで現代的な音楽と して表現することに成功したのだった。その斬新な試み は、一般の聴衆には理解されなかったが、音楽界では 高く評価され、近代スペイン音楽史におけるターニング ポイント的作品となった。これによって、後に続く世代 の作曲家は、ファリャを方向性の手本としながらも、み ずからの個性を確立するためには彼を越えていかなけ ればならないという状況に置かれたのだった。

このころ首都マドリードには、そんな運命を背負 いながら充実期を迎えようとしていた、若き作曲家 たちが育ちつつあった。そして1930年11月29日、 マドリードにおける芸術文化ムーヴメントの拠点の 一つとして機能していた「学生館 (Residencia de Estudiantes)」において、「新しい音楽」によるコンサ ートが開かれる。彼らは、グスタボ・ピッタルーガ、ロド ルフォとエルネストのアルフテル兄弟、サルバドル・バ カリッセ、フリアン・バウティスタ、フェルナンド・レマー チャ、フアン・ホセ・マンテコン、ロサ・ガルシア・アスコ ートからなる、「8人組」と呼ばれるグループであった。 作風に新古典主義的な傾向もみられることから、フラ ンスの「6人組(プーランク、ミヨー、オネゲル、オーリッ ク、タイユフェール、デュレ)」との類似性を指摘される こともある。特にプーランクとミヨーは、この学生館で 講演とコンサートを行っており、マドリードの「8人組」 に刺激を与えたと考えられる。「8人組」の関係は緊密 で、数年間活発に活動を行い、(「6人組」が全員で活 動したのはたった1回)、新古典主義、カスティシスモ、 無調、12音技法、民俗音楽などがミックスされた「新 しいスペイン音楽」への扉が開きかけたかにみえた。

しかし彼らは、1936年に勃発したスペイン内戦によ

って離散を余儀なくされ、二度と集うことはなかったのである。彼らがたどった運命を、簡潔に記してみよう。

「8人組」でもっとも重要な作曲家は、アルフテル兄弟である。兄ロドルフォ(1900-87)はメキシコに亡命し、以後メキシコを中心に中南米で活躍したが、その作風からスペイン色が失われることはなかった。後期には、ルネサンス期のスペイン音楽の語彙を活かし、国外からネオ・カスティシスモ(新しいスペイン生粋主義)的音楽を発信したのだった。「モンポウ以後もっとも注目されるべきスペイン人作曲家」ともいわれるロドルフォの作品は、故国スペインに逆輸入され、後進に影響を与えている。ファリャの最後の弟子の一人で、ピアニストとしても活躍した紅一点のR.G.アスコート(1901-2001)も、メキシコへと去った。ヨーロッパ諸国が受け入れを拒むなか、メキシコは国を挙げて、多くの亡命スペイン人に手を差し伸べていたのである。

ファリャの高弟だったエルネスト・アルフテル (1905-89)は、20代にしてすでに、当時もっとも知られた現代作曲家となっており、高名な評論家アドルフォ・サラサルも彼を絶賛していた。エルネストは1936年までセビーリャ音楽院の院長を務めていたが、内戦を避け、以前から縁のあったポルトガルに拠点を移す。のちにスペインへ戻り、ファリャが精魂を傾けて取り組んでいた未完の大作カンタータ《アトランティダ》を補筆完成、初演するなどの仕事を行った。フランス音楽にも影響を受けた、スペイン版の新古典主義音楽を世に送り出した人物である。

G.ピッタルーガ(1906-75)も、ファリャから大きな影響を受けている。内戦を機にアメリカへ渡り、中南米諸国へ旅して映画音楽の作曲などで生計を立てた。フランコ政権末期の1962年になってスペインへと戻ってきたが、晩年は政治的な発言も控え静かに過ごしたようである。

J.バカリッセ(1898-1963)は、その活動の初期には当時もっとも優れた作曲家の1人と評価されていたが、その後はあまり進化しなかった。「8人組」活動の熱心な推進者で、ウニオン・ラディオなどを舞台に新しい音楽の紹介を企画し続けた。亡命前の作品には注目すべきものもあり、統一感はないものの、この世代を代弁するように進歩的な作風をもっていた。フランスに亡命後はスペインに戻ることなく、パリで死去する。

J.バウティスタ(1901-61)は、新しい音楽潮流としてすでに定着していた無調とは縁遠かった作曲家のようだ。内戦以前に作曲した作品は、戦争の混乱により散逸してしまっている。内戦が終わるとアルゼンチ

ンに渡り(ファリャも内戦終結後にアルゼンチンに行き、客死した)、ブエノスアイレスに居を定めるが、そこでは経済的困窮もあって作曲の才能をさらに発展させることはできなかった。生活のために映画音楽の仕事に追われたとされ、亡命によってキャリアに大きなハンディを負った作曲家の一人となった。

「8人組」のなかで唯一、国内亡命の道を選択した F.レマーチャ(1898 -1984))は、さらに悲惨な例と言 えるかもしれない。彼の音楽的傾向は「8人組」の他の メンバーたちとは異なり、フランスの流儀よりもイタリ アに近いところにあった。ローマでマリピエロに師事 し、1928年スペインに帰国、「8人組」のアクティヴな メンバーとなる。マドリード交響楽団のヴァイオリニ ストとして活動し、スペインの映画音楽作曲のパイオ ニアともなるが、内戦が始まると筆を絶ち、そのまま 完全に沈黙してしまうのである。故郷トゥデラに引き こもり、サラサーテ音楽院(パンプローナ)の院長に就 任する1957年まで表舞台には出てこなかった。彼の 《ギター協奏曲》は、ロドリーゴの《アランフエス協奏 曲》を超えるほどの傑作とされるが、演奏される機会 はきわめて少なく、更なる紹介が待たれる。J.J.マンテ コン(1895-1964)も、亡命という形こそとらなかっ たものの、音楽界の現場とは距離を置き、マドリード の自宅で個人レッスンを授ける生活を送った。

音楽の革新を目指すエネルギーにあふれて活動を開始した「8人組」だったが、ここまで見てきたように、メンバーの何人かはスペインの音楽史から消えてしまう運命をたどり、グループとしての活動も、長らく忘れ去られる憂き目にあったのである。「8人組」のメンバー以外にも、オスカル・エスプラ、ロベルト・ジェラール、ハイメ・パイッサ、バルタサール・サンペール、パウ・カザルスなど、スペイン脱出を選択した音楽家は数多い。また、「第二のファリャ」と呼ばれ将来を期待された作曲家アントニオ・ホセは、ファランへ党に捕らえられ処刑されている。優秀な人材が一気に不在となった結果、「新ルネッサンス」時代の到来かと思われたスペインの音楽界は、その後しばらく勢いを失うこととなるのである。

そんな苦難の時代を経て、いま、スペインの現代音楽界はエネルギッシュに活動している。「8人組」をはじめとする亡命作曲家たちについても研究が進み、再発掘、再評価の動きがある。こんなところにも、どんな状況にも屈することのないスペインの生命力を感じずにはいられない。

文下山静香



ト山 静香 しもやましずか / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。文化庁派遣芸術家在外研修員としてスペインへ渡り、マドリード、バルセロナで研鑽。 スペイン各地に招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。ラジオ、テレビ番組での演奏多数、これまでに5枚のCDをリリーズ。現在、スペイン・中南米音楽を含む多彩なレパートリーと柔軟な感性をもつピアニストとして活発な演奏活動を展開。さらに執筆・翻訳・講演・トーク・・・とマルチにこなすユニークな存在として注目を浴びている。 6冊の共著のほか、翻訳書に『サンティアゴ巡礼の歴史 伝説と奇蹟』(原書房)、校訂・解説を担当した楽譜にグラナドスピアノ作品集、アルベニスピアノ作品集(ヤマハミュージックメディア)がある。

桐朋学園大学非常勤講師。JML音楽研究所にて「スペイン音楽ピアノ演奏講座」開講中。

Official Web Site http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf **f** 裸足のピアニスト・下山静香のブログ http://ameblo.jp/shizukamusica

◆コンサート情報◆

下山静香PIANO LIVE<ラテンアメリカに魅せられて> 第6回 10月29日(水)スペースDo <スペイン室内楽シリーズ> 第4回 ゲスト: クァルテット・エクセルシオ 12月9日(火)JTアートホール アフィニス

スペインとラテンアメリカにて 最先端を行くスペイン語学校



12 スペインの アカデミック センター **10** スペイン、 メキシコ、 コスタリカでの サマーキャンプ **20** ラテン アメリカの 研修都市 **32** スペインでの 大学、 ファウンデーショ プログラム ヘッドオフィス

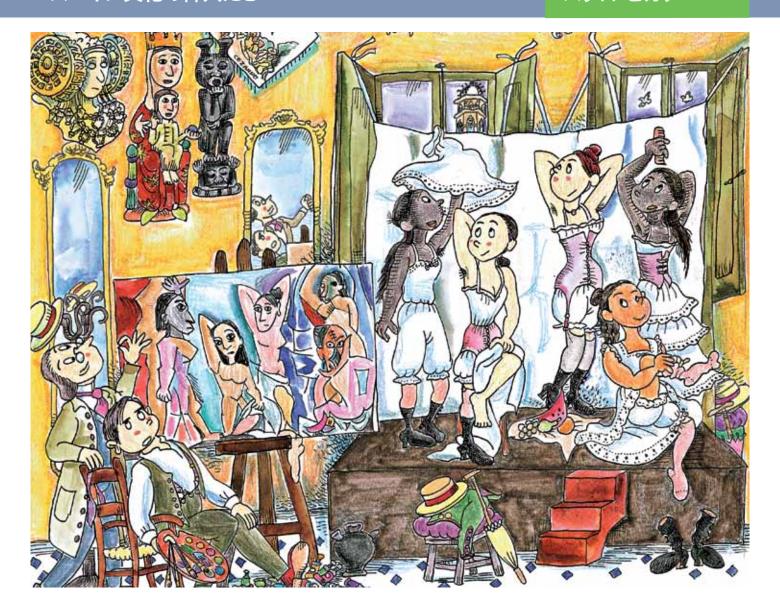
Alberto Aguilera, 26 | 28015 Madrid

Phone: +34 91 594 37 76 **Fax:** +34 91 594 51 59 E-mail: asia@enforex.es

ideal

アリカンテーバルセロナーカディス | グラナダーマドリッド | マラガーマルベージャーパンプローナーサラマンカーセビージャーテネリフェーバレンシア (スペイン) アルゼンチン | ボリビア | コロンビア | コスタリカ | チリ | キューバ | ドミニカ共和国 | エクアドル | ガテマラ | メキシコ | ペルー (ラテンアメリカ)

Grandes nombres de la cultura hispánica スペイン文化の偉人たち



Fue uno de los mayores artistas del siglo XX, revolucionó la pintura universal al inventar el cubismo y estuvo siempre en la vanguardia del arte a través de diferentes disciplinas artísticas como la pintura, la cerámica, la escultura, el grabado y la escenografía.

«Durante el verano de 1906 fue a pasar las vacaciones a un pueblecito del Pirineo, Gósol, y a su regreso inició su verdadera revolución pictórica. Es en este momento cuando pinta una de sus obras más importantes, "Las señoritas de la calle Avinyó", que reúne vertientes del arte tan alejadas como pueden ser el arte ibérico, el arte negro y la obra de Cézanne.»

«Se dedica con una ferocidad casi obsesiva a la interpretación de la obra de Velázquez, "Las Meninas". Realizó una serie de 48 obras sobre este tema. Cuando hace un mes que trabaja sin interrupción, decide tomarse un pequeño descanso y se entretiene pintando las palomas que ve desde su ventana. La luz y el color mediterráneos llenan estos cuadros.»

パブロ・ピカソはキュピズムを創始し、芸術界に大きな印象を与えた 20世紀で最も偉大な芸術家の一人である。彼は絵画、陶芸、彫刻、版 画、舞台芸術など、芸術のあらゆるジャンルにおいて常に先駆的な存在 であった。

1906年の夏、ピリネオ山脈の麓にあるゴソルという小さな町で休暇を過ごした後、彼のスタイルは独特なものへと遂げた。この時期に描かれたのが《アビニョンの娘たち》である。これはイベリア美術やアフリカ彫刻、セザンヌの作品などの様々な芸術側面を集めて描いた作品であり、彼の最も重要な作品の一つである。

彼は熱心、また強迫的とも言えるほどベラスケスの作品《ラス・メニーナス》の理解に努め、このテーマで48もの作品を制作した。1ヶ月間休むことなく作業した後、短い休憩を取った際には、彼は窓から見える鳩を描いて楽しんだ。これらの作品は地中海の光と色で埋め尽くされている。

¿Qué sabes de Pablo Picasso?

パブロ・ピカソについて何を知っていますか?

¿En qué ciudad española nació este gran artista?

- a) Madrid
- b) Málaga
- c) Valencia

¿En qué hecho histórico se inspira el cuadro "Guernica"?

- d) En la Primera Guerra Mundial
- e) En la Segunda Guerra Mundial
- f) En la Guerra Civil Española

¿Cuál de estas mujeres nunca fue pareja de Picasso?

- g) Olga Koklova
- h) Fernande Olivier
- i) Elena Ivanovna Diakonova

¿Cuál de estos animales nunca tuvo una simbología especial en su obra?

- j) El águila
- k) La paloma
- l) El toro

Soluciones: b) Málaga; f) En la Guerra Civil Española, concretamente en el bombardeo de la localidad vasca de Guernica; i) Elena Ivanovna Diakonova, más conocida como Gala, fue mujer de Salvador Dalí, no de Picasso; j) El águila.

この偉大な画家が生まれたスペインの町はどこ?

- a) マドリード
- b) マラガ
- c) バレンシア

ゲルニカの題材となった歴史的な出来事は何?

- d) 第一次世界大戦
- e) 第二次世界大戦
- f) スペイン内戦

一度もピカソの恋人にならなかったのは次の女性のうち誰?

- g) オルガ・コクローヴァ
- h) フェルナンド・オリヴィエ
- i) エレナ・イヴァノフナ・ディアコノヴァ

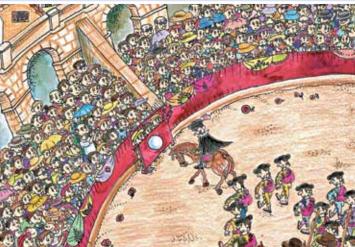
一度も彼の作品において特別な象徴として描かれたことがない動物は 次のうちどれ?

- j) ワシ
- k) 鳩
- I) 雄牛





Encuéntrala en www.adelanteshop.jp





もっと知りたい人には: 小さな物語シリーズ「ピカソ物語」 スペイン語版・日本語版好評発売中!

お問い合わせは: www.adelanteshop.jp



スペイン&中南米への留学相談、手続き代行無料サービスのスペイン留学. jp

スペイン留学ガイド

地方ごと異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪

あなたはスペインと言ったら何を思い描きますか?

フラメンコ、サッカー、闘牛、白い家、サグラダ・ファミリアなど…

お気に入りの街が見つかれば、きっと、より充実した留学生活になることでしょう。

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。

ここでは、代表的な留学先をいくつか紹介していますが、この他にも多く の学校をご用意しております。

まずは、電話やメールでご相談下さい。スペイン留学.jpでは、カウンセリングを行い、一人一人のご希望に合った学校を提案いたします!

※料金は1€=141円で計算した2014年5月のものです。入学金や宿泊先斡旋料、夏期料金等が加算される学校もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。

サラマンカ

1218年に創立されたスペイン最古の大学がある学生の街。カテドラル、大学、貝の家、マヨール広場など美しい建物が多く、旧市街全体が世界遺産に登録されています。

<コレヒオ デリベス>



	2週間あたり	24週間あたり	
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	346€ / 48,786円	2.880€ / 406,080円	
☆ ホームステイ (個人部屋・2食付)	280€ / 39,480円	3.360€ / 473,760円	
☆ 共同アパート (個人部屋・食事なし)	210€ / 29,610円	1.860€ / 262,260円	



セビーリャ

太陽と青い空が似合うスペイン南部、アンダルシア地方にある歴史的な街。スペインの三大祭りのひとつである、春祭りでも有名です。 バスや電車で少し足を延ばすと、まるで絵ハガキのような白い村が点在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

<クリックIH セビーリャ校>



	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	180€ / 25,380円	3.600€ / 507,600円
☆ ホームステイ (個人部屋・2食付)	160€ / 22,560円	3.840€ / 541,440円
☆ 共同アパート (個人部屋・食事なし)	100€ / 14,100円	2.400€ / 338,400円



グラナダ

アルハンブラ宮殿があることで、世界的に有名なグラナダは、ア ラブ文化の名残を残す古都。都市の規模はそれほど大きくありません が、落ち着いた美しい町並みが素晴らしく、訪れる価値があります。

<ドン・キホーテ グラナダ校>



	1週間あたり	24週間あたり	
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	145€ / 20,445円	3.120€ / 439,920円	
☆ ホームステイ (個人部屋・2食付)	164€ / 23,124円	3.936€ / 558,912円	
☆ 共同アパート (個人部屋・食事なし)	130€ / 18,330円	3.120€ / 439,920円	

サン・セバスティアン

フランス国境近くに位置し、バスク地方独自の文化が息づく街。 「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能で き、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも賑わっています。

<ラクンサ・インターナショナルハウス>



	1週間あたり	24週間あたり	
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	168€ / 23,688円	3.000€ / 423,000円	
☆ ホームステイ (個人部屋・2食付)	230€ / 32,430円	5.520€ / 778,320円	
☆共同アパート(個人部屋・食事なし)	120€ / 16,920円	2.736€ / 385,776円	



マドリード

世界的に有名なプラド美術館や王宮、レティーロ公園など見所が いっぱいの活気溢れる、スペインの首都。休日にはショッピングや バル巡りを楽しんだり、アート鑑賞に耽ったり・・・。

マドリードはスペインのほぼ中心に位置するため、他の都市へ のアクセスも良好です。

<エストゥディオ サンペーレ マドリード校>

🏸 Estudio Samuere

	1週間あたり	24週間あたり	
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	229€ / 32,289円	3.600€ / 507,600円	
☆ ホームステイ (個人部屋・2食付)	205€ / 28,905円	4.920€ / 693,720円	
☆共同アパート(個人部屋・食事なし)	150€ / 21,150円	3.600€ / 507,600円	

バレンシア

火祭りとパエージャ発祥の地として有名な、スペイン第3の都市バ レンシア。地中海性の温暖な気候で、ビーチリゾートとしても知られ ています。

<コスタ・デ・バレンシア>

Costa de Valencia

	1週間あたり	24週間あたり		
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	175€ / 24,675円	3.085€ / 434,985円		
☆ ホームステイ (個人部屋・2食付)	175€ / 24,675円	4.200€ / 592,200円		
☆ 共同アパート (個人部屋・食事なし)	110€ / 15,510円	2.640€ / 372,240円		

ご出発までの流れ

1 留学カウンセリング、お見積り

「どの街にしよう?」「費用はどれくらい?」「何から準備すればいいの?」など、漠 然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはメールやお 電話でお気軽にご相談下さい。

- ② 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが決まれば、留 学手続代行申込書を提出
- 3 入学手続き開始
- 4 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
- 今生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、在日スペイン大使 館へ提出

90日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上の留学には学生ビザが 必要です。短期学生ビザ(91日以上180日以内)取得の場合は、ご出発の約2ヶ月 前、長期学生ビザ(181日以上)取得の場合は、ご出発の約3ヶ月前に時間に余裕 を持って提出して下さい。

- 6 留学費、海外送金手数料のご入金
- が記述が、 前空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、いよいよご出発!

<当サポートサービスの範囲>

- ・選択された学校への出願サポート
- ・サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、共同アパート 等の宿泊先申込手続(混雑状況によりご希望に添えない場合がございますの で、事前にご確認下さい。)
- ·留学費用の海外送金
- ・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
- ※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい。
- ※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配等は含まれません。各自 でご準備下さい。
- ※海外送金手数料(約8,000円)はご負担となります。

よくあるご質問

- \bigcirc 語学プラス α でどんな事ができますか?
- 🚺 フラメンコ、サルサ、スペイン料理、ワインテイスティング、ゴルフ、テニス、サーフ ィン、スキューバダイビング、スペインタイルなど・・・、様々な楽しいプログラム をご用意。また、50歳以上の方向けに、ゆっくりスペイン語を学び文化を楽しむ コースもあります。
- 留学の費用はどのくらいかかりますか?
- 主にかかる費用の内訳は、入学金、教材費、授業料、滞在費、航空券代、保険代です。 学校のプログラムや、宿泊タイプ、都市によって、かかる費用は大きく違ってきま す。長期留学される方向けに受講料の長期割引がある学校もあります。
- ② どんな滞在スタイルがありますか?
- 🚺 ホームステイ、共同アパート、学生寮、個人フラット、ホテルなどがあります。

スペイン留学、jpでは、ご希望に合った学校選びや、プ ランの作成など幅広くお手伝いしております。 漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご

予算など、まずは、お気軽にご相談下さい。

【お問合せ】

スペイン留学.jp

URL: www.spainryugaku.jp

お電話: 06-6346-5554

E-mail: info@spainryugaku.jp

f https://www.facebook.com/spainryugaku.jp

♪いいね! をクリック!

今すぐスペイン留学の最新情報を入手しよう!

ツイッターもあります。 🏏 @spainryugaku







はじめてのスペイン語講座

第17回 命令を表す表現

HOLA みなさんこんにちは!

さて、今回は命令形について勉強してみましょう。

命令形は、誰かに何かを命令する場合だけでなく、何かをお願いしたい時にも使えるので、覚えておくととても便利です。 残念ながら、Usted (目上の人に対するあなた・単数)とUstedes (前述のUstedの複数形)の形、および否定の命令形は、接 続法を伴うためここでは勉強しませんが、TúおよびVosotrosに対しての肯定の命令形を学んでいきましょう。



① Túに対する命令形

まずは、[Tú(あなた)]に対する命令形の作り方を勉強していきます。

また、活用形を覚えるのか…と落胆しているあなた!安心してください。実は…とても簡単なんです! なぜなら、Túに対する命令形は、「直接法現在形の三人称・単数」の形と同じだから。

わかりやすいように、実際の動詞を使って説明します:

例えば、「COMER(食べる)]という動詞ですが、直接法現在形では以下のように活用されますね。

	The state of the s			
	主語·単数形		主語·複数形	
一人称	Yo	como	Nosotros/Nosotras	comemos
二人称	Tú	comes	Vosotros/Vosotras	coméis
三人称	Él/Ella/Usted	come	Ellos/Ellas/Ustedes	comen

次に、再帰動詞の命令形も覚えておきましょう。

この中で三人称単数形は ÈI/Ella/Ustedを主語とする comeという活用になります。



これをそのまま命令したい相手に言えば、「iCOME!(食べろ)」という意味になります。どうですか?意外と簡単でしょ?

※この時に気をつけて欲しいことは、感嘆符の付け方です。

命令という性質上、この感嘆符をつけることがほとんどですが、スペイン語の場合、「i ~!」と、前にも付けることが ルールですの同様に疑問符も「しゃ!」となりますので、忘れずにの

ただし、残念ながら上の方法は不動のルールではありません。右の8つの動詞は例外として特別な形に変わります。

iLevánate!

起きなさい!



- 2. Hacer (する、作る)→**Haz**
- 3. Ir (行く) → **Ve** 4. Poner (置く) → **Pon** 5. Salir (出る)→**Sal** 6. Ser (~だ)→**Sé**
- 7. Tener (持つ)→**Ten**
- 8. Venir (来る)→Ven
- 主語·単数形 一人称 Yo me levanto Τú

例えば、[Levantarse(起きる)]ですが、まず直接法の活用は次の通りですね。

二人称 te levantas 三人称 Él/Ella/Usted se levanta

再帰動詞の場合もやはり、 使うべきは三人称単数の 活用形です。

3人称単数形の[Se levanta]のLevantaだけを取ってきて、その後ろに、teをつけます。 Levanta+te、これを続けて表記し、iLevantate! としたのが、正しい再帰動詞の命令形です。 ちなみに、発音の一番強いところは、teをつけないときのまま。

通常Levantateのままだと、Levantateと最後から2番目のaにストレスがおかれるのですが、 正しくはLevantate(最初のaにストレス)なので、iLevantate!とアクセント記号をつけるの を忘れずに!

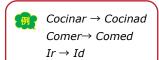
②次にVosotros / Vosotras (あなたたち) に対する命令形の作り方も覚えましょう。 こちらには、Túの時のような例外の形をとる動詞はありません。

すべての動詞の不定詞から語尾の「r」を取って、代わりに「d」をつけます。

しかし、再帰代名詞の場合は、もう少し複雑です。

通常なら、Túに対しての命令のように、 $Levantad + os \rightarrow Levantados$ にしたいところですが、これは間違いです。 正しくは、Levantadから語尾のdをとり、osをつけて、iLevantaos!になります。

iLevantaos!の場合は、そのままでも正しい位置(Levantaos)にアクセントがくるので、アクセント記号は必要ありません。 しかしながら、例えば《Vestir》という動詞の場合のように、そのまま(Vestios)では正しい位置(Vestios)にアクセントがこな い場合には、iVestíos!とアクセント記号を添えなくてはなりません。ややこしいですが、くれぐれも気をつけて!





② 目的語を伴う命令形

最後に、直接・間接(またはその両方)の目的語を伴う場合の命令形の作り方を覚えましょう。

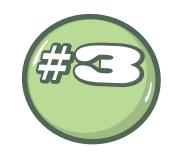
少し複雑ですので、がんばってくださいね。

下の絵を見てください。

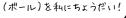
マリさんがミキちゃんのペットのワンちゃんとボール遊びをしています。

「ボールを(私に)ちょうだい!」と言いたいとき、「与える」という意味の動詞 Dar を使って命令文を作りましょう。

《~に》という表現については次の表を参照して文章を作りましょう。



iDame la pelota!= iDámela!





me	te	le	nos	os	les
私に	君に	彼に/彼女に/ あなたに	私たちに	君たちに	彼らに/彼女らに あなたたちに

上の表を参照すると、「私に」と言いたいときはmeを使います。

通常の文章の場合、動詞の前にmeを置くことがほとんどですが、命令形の場合は動詞の後になります。 動詞Darの「r」を取ってDa+meですが、再帰動詞の場合同様くっつけて表記しますので、Dameとなり ます。そして、ボールはla pelotaなので、iDame la pelota!で、「ボールを私にちょうだい!」となります。

ただし、ボールが既に既知のものであるとき、la pelotaと何度も繰り返すのはあまり美しくありませ んよね。そこで、以下の表を見てください。

男性名詞•単数形	女性名詞·単数形	男性名詞•複数形	女性名詞·複数形
lo	la	los	las
		,	

上の表のように、繰り返しをさけるために目的語を言い換えることができます。 La pelota は女性名詞単数形なので、上の表を参照すると la になりますね。

Dame la pelota → Dame + la →iDámela! と全てくっつけてしまいましょう。laをつけること により、アクセントの位置が変わりますので、アクセント記号を忘れずに!

※文法的な説明になりますが、上記の文章の場合、meは間接目的語、laは直接目的語と呼ばれますの

そして最後の難関です。

右の絵を見てください。今度は、マリさんが、ワンちゃんに、「ミキちゃんにボールをあげて!」と言っています。 「このボールを彼女にあげて!」というのは何と言うのでしょうか?動詞は変わらず Dar を使います。

「そ~んなの簡単!「私に」のmeの代わりに「彼女に」を表すleを使えばいいんだから、Dálelaでしょ?」なん て思っていませんか?

惜しい!考え方はもちろん正しいのですが、ここで、更なるルールが存在するのです。

le + lo/la/los/las をあわせて使うとき、le は se という形に変身します。

つまり × iDálela! ではなく、

O iDásela!

が正しい形です。これは、Ie が Ies になった場合でも同じことですので、気をつけてくださいね!

今回は覚えることがたくさん出てきて大変でしたね。でも、命令形を覚えると、また新しい表現が出来ます。間違 いは恐れずに、どんどん使って覚えていきましょう!





(ポール)を彼女にあげて!



un descanso....



《命令形を使わない「お願い」の形》 🧶

今回のテーマは、「命令形」でしたね。「命令形」という名前はついていますが、当然 のことながら、相手に上から命令する時だけでなく、何かを「お願い」したいときにも、 使えます。その時には必ず《por favor》を付けてくださいね。

- Abre la ventana, por favor. (窓を開けて下さい。)

ちなみに、《Por favor》は文章の最初でも最後でも、どちらにつけても大丈夫です。

ただ、今回勉強した中には、《Usted》や《Ustedes》に対する命令の作り方は入っていま せんでしたoこれを勉強するのは接続法を勉強してからになりますが、今日は《Usted》に も《Ustedes》にも使える魔法のフレーズを覚えておきましょう。

それは、《podría》です。この《podría》は、「~できる」という動詞〈poder〉の過去 未来の三人称単数形なのですが、難しいことはこの際一旦忘れてしまいましょう。

この《podría》の後に、動詞の原型を持ってくるだけで、〈Usted〉に対するお願いの形 が出来てしまいます。例を見てください。

- ¿Podría abrir la ventana? (窓を開けていただけますか?)

例のように、とても丁寧な表現が簡単に出来ます。この後に《por favor》を付けても もちろんOkです!〈Ustedes〉に対する場合は、《podría》の代わりに《podrían》を用 いて下さい。なお、この文章は疑問文ですので、クエスチョンマークを忘れずに。



- -般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート
- など目的やペースに合わせて選べるコース・ネイティブ講師だからブチ留学気分で 自然なスペイン語がマスターできる!
- ・振替ができるので忙しくても安心!
- ・月謝払いOK!
- ・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE 〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F TEL: 06-6346-5554 • FAX: 06-6110-5122 E-mail: info@adelante.jp • http://www.adelante.jp

イラスト:田中文子





TRIBUS URBANAS ESPAÑOLAS スペインの都会の種族

Todo el mundo sabe que las tribus urbanas son un grupo (una banda) de gente que comparte la misma indumentaria y comportamiento y que te llaman la atención si los ves por la calle. España tiene una mezcla única de estas "subculturas". Algunas de estas tribus te puede recordar a gente de tu país. Aquí tienes algunas de las más famosas que tenemos en España. Toma nota...

都会の種族とは共通の服装、行動様式をとり、 街で見かけると周囲の目を引く人達のグループ(団体) であるという事は周知の通り。スペインにはこれら独特 なサブカルチャーが多種存在する。これらの種族を見て、 皆さんの国でも似たようなタイプのグループを思い起 こすかもしれない。ここではスペインで最も有名なもの をいくつかご紹介する。メモのご用意を・・・。



EL CANI La palabra "cani" viene posiblemente de Andalucía y significa "gitano o romaní". Al igual que el estereotipo británico "chav", el "cani" usa anillos y cadenas de oro, zapatillas de deportes y gorra de marca nike. A simple vista puede parecer que le gustan problemas, pero la realidad es que son gente joven que aprenden en las calles...

エル・カニ "cani"という言葉は恐らくアンダルシア発祥の"ジプシー"または"ロマ"と言う意味の言葉から来たもの。 イギリスで俗に言われる"chav"同様"cani"も金の指輪とチェーンネックレス、ナイキのスニーカーと

帽子を身に着けている。一見するとトラブルを好んでいるように見えるが、 実際は街で世間を学んでいる若者たちである。

EL LOLAILO Es alegre y folclórico. Le gusta el flamenco, camisas de seda apretadas y la guitarra española. Suele ser amigo de los canis pero no hay que confundirlos.

Al Lolailo, te lo encuentras tocando en el metro, en cualquier bar, parque e incluso en la playa. Es optimista y su religión es el flamenco....

明るくフォルクローレ好き。フラメンコとシルクのタイトなシャツとスパニッシュギターを 好む。cani達と仲が良いが、同種ではない。Lolailoはギターを弾きながら地下鉄やバル、公 園、海辺などに出現する。前向きな性格でフラメンコが彼らの宗教(のようなもの)である。





EL MACARRA El macarra es aquel que se cree con buen gusto y en realidad es vulgar y ordinario. La canción de Joaquín Sabina lo define a la perfección: "Macarra de ceñido pantalón pandillero tatuado y suburbial, hijo de la derrota y del alcohol... Le va el canuto y suele poner "caras" ensayadas frente al espejo".

エル・マカラ El Macarraとは自分はセンスが良いと思っているが、実際は下品でセンスがない人の事を指す。
ホアキン・サビーナの歌が彼らのことを完璧に描写している:

"Macarra、仲間内で絵や文字を描いたピチピチのズボンをはいた郊外出 身で、親たちに呆れられ、アルコールに溺れた奴…。マリファナを吸い、 鏡の前で(喧嘩する時の)"顔"を練習している。"

EL PIJO A los integrantes de esta tribu, se les reconoce desde cualquier esquina. Alternan los polos de "Lacoste" con las camisas de "Ralf Lauren", pantalones chinos en color beig, azul o granate; suelen rematar la indumentaria con un cinturón haciendo

juego y un jersey que dejan caer de sus caderas o de los hombres aunque llueva o haga frío. También se les reconoce porque les gusta comenzar cualquier frase con un "o seas"....

エル・ピホ 何処に行っても彼らはラコステのポロかラルフ・ローレンのシャツを着て、ベージュか青かワインレッドのチノパンを組み合わせ、同系色のベルトでコーディネートをばっちりキメて、雨が降っても寒 くてもセーターを肩からかけるか腰に巻いている。"o seas"….という言葉でフレーズを始めるのが好きなのも特徴。



スペイン語学校 語学留学お問合せ下さい

クリック・インターナショナルハウス・セビリア&カディス

Email: japan(aclic.es(日本語でどうぞ)

www.clic.es



時を表す副詞の用法について

今回も前回に引き続いて副詞がテーマです。前号では場所を表す副詞(句)でしたが、今日は時を表す副詞です。今回も対象は少し広げて必ずしも副詞だけではなく、時を表す副詞や副詞句と副詞的表現とご理解ください。

まずは基本的な「時点」を表す副詞です。



これについては、本エッセーを読まれている中級者の方には説明は 不要でしょう。次に行きます。

antiguamente(古くは) recientemente(最近は) actualmente(現在は) hoy (en) día(今日)

いずれもよく使う表現です。例を見ておきましょう。

Antiguamente en Osaka había muchos canales y puentes, pero actualmente ya no guedan muchos.

古くは大阪には多くの水路や橋があったが、現在ではほどんど残っていない。

次に「前後関係」を表す副詞です。



いわゆる「ビフォー・アフター」です。「 \sim の前」「 \sim の後」と言うときには《de》が必要です(antes de \sim ,después de \sim)。さらに文章が後続する場合は《que》が必要ですが、《antes》の場合は接続法が要求されます。

Antes de que me olvide te digo que mañana no podré acompañarte porque me ha surgido un compromiso.

忘れないうちに言っておくけど、明日は君に同伴できない。約束が出来たので。

また、同時性を表す表現に《simúltamenamente》や《a la vez》も 覚えておきましょう。

Al que asa dos conejos a la vez, uno se le quema.

2匹のウサギを同時に焼く者は、1つを焦がす。

前後関係の一種ですが、「早晩」は、《tarde ⇔ temprano》です。「遅かれ早かれ」と言うときは語順が決まっていて、"tarde o temprarno" になります。

Si el Gobierino no toma alguna medida, la seguridad social, tarde o temprano, irá a la bancarrota.

政府が対策を取らないと、社会保障は<mark>早晩</mark>破綻するだろう。

一方、《pronto》は《temprano》と同義語として、つまり「時間的に早く」の意味でも使いますが、少し異なった意味で使うことが多いでしょう。 例文を見てください。

Hoy vamos a cenar temprano, a las seis en vez de las ocho.

今日は早く晩ご飯にしよう、8時ではなく6時に。

Vamos a cenar **pronto**, dentro de cinco minutos.

すぐに晩ご飯にしよう、5分後に。

つまり、後の例では《pronto》は「早く」ではなく「すぐに」の意味で使われています。

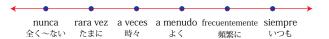
日本人学習者が混乱しがちなのが、この早晩と「遅く一速く」です。 こちらは時の副詞というよりもむしろ様態の副詞ですが、ここで確認 しておきましょう。

> despacio ⇔ deprisa lentamente ⇔ rápidamente (lento) (rápido)

言うまでもなく、lento - rápido は形容詞ですが、そのままの形で副詞として使われることもあります。

Su coche pasó **rápidamente** por delante de nosotros. 彼の車は私たちの前を**速く**通過した。

lento - rápido と despacio - deprisa との違いは微妙でネイティヴの 人でも上手く説明できないようです。とりあえずは用例と共に覚える しかないでしょう。例えば、「速く話す - ゆっくり話す」には後者が使 われます。



もちろん、これらは代表な例であって、rara vez = raramente, frecuentemente = con frecuencia など、いろんなバリエーションがあります。

一方、「定期的な期間」を表す表現には、次のようなものがあります。

periódicamente(定期的に): diaiariamente(毎日), semanalmente(毎週), mensualmente(毎月), anualmente(毎年)

Esa revista se publica cada dos semanas, pero de aquí en adelante saldrá semanalmente

その雑誌は2週間に1回出版されているが、これから先は毎週出る。

ところで、スペイン語には前置詞が不要な時の表現がありますが、よく「いったいいつ要らなくて、いつ要るのですか」という質問を受けます。ちょっと整理しておきましょう。そもそもなぜ前置詞が要らないのでしょうか。それはスペイン語がラテン語から生じたことにあります。ラテン語は名詞や代名詞自体に格変化があり、《Roma ローマが》、《Romae ローマの》、《Romae ローマに》、《Romam ローマを》、《Romāローマから》、などと名詞自体が変化するので必ずしも前置詞は使われていませんでした。前置詞無しはその名残と言えそうです。

さて、理屈はさておき具体的な話に入ります。不要なのは次のような場合です。まずは、《esta mañana》、《esta tarde》、《esta noche》といった決まりきった表現です。それから、曜日、日付などですが、これはdía が省略されていて、定冠詞をつけるだけで前置詞は要りません。el lunes, el 26 de mayo などです。さらに以下のように何らかの限定がされている場合には前置詞が不要なケースがあります。

- OMi primo solo trabaja los meses de verano.
- ×Mi primo solo trabaja los meses.
- OLos nuevos estudiantes tienen que matricularse la semana que viene.

×Los nuevos estudiantes tienen que matricularse la semana.

つまり、《el año pasado》、《este año》、《el próximo año (el año que viene)》なども《el año》だけでは不可ですが、pasado 等が付くと可能です。結局は理屈ではなくよく使われる表現を覚えてしまった方が上達の近道だと思います。

それでは、!Hasta pronto!

文 仲井邦佳



仲井邦佳 なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語 一文法と演習―』(共著、同学社)などがある。







写真左:「historias de LUZ」のロゴ 写真下:同じやり方に こだわるな、できなく てもあきらめるな」社 のモットー



写真上:カメラマンの一人は、アルベルトの甥 写真右:撮影してすぐ編 集する

実は、彼とは35年来の友人である。つまり、彼がまだ子どもの頃からのつきあいだ。高校時代には生徒会長で、町(LojaというGranada県の小さな町)のサッカーチームの選手で、さらに地方ラジオの通信員でもあった。その後マドリッドのコンプルテンセ大学でジャーナリズムを学び、卒業後はLojaに戻って月刊の新聞を創刊したりしたが、しばらくしてアンダルシア州政府の広報部に職を得てやっと落ち着いた、と思っていた。が、数年前に突然辞めて「ALMA」を作った。携帯を使った情報発信ということ以外、一体何をやるつもりかよく分らなかったが、それがやっと形になった。2011年12月に始まった「historias de LUZ」である。スマホ全盛の時代にはタイムリーなアイデアだ。

紆余曲折したが、アルベルトもようやく自分の道を見つけたような気がした。といっても、また新しいことを始めるような気もする。

今のところ「historias de LUZ」は西語・英語版しかないが、6月には仏語・独語版もできる。ぜひ日本語版も作りたいと助言を求められた。興味のある方は 是非一報を。

文•写真 篠田有史



6月16日発刊! オールカラー・フォトエッセイ 「伊達侍と世界をゆく」 1,600円+税(190ページ)

しのだゆうじ/Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。

24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。

【写真展】 スペインの小さな町で(冨士フォトサロン)、遠い微笑・ニカラグア (〃)など。

【本】「ドン・キホーテの世界をゆく」(論創社)「コロンブスの夢」(新潮社) 「リゴベルタの村」(講談社)などの写真を担当。



アルベルトとスタッフたち。昨年、アンダルシア・ジャーナリズム賞を受賞した。

日西商業会議所 Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介いたします。

歴史・文化・自然のスペイン 遺産を満喫する旅



ティネルムでは、スペイン文化の真のエッセンスを発見して頂けるよう、豊かな歴史・芸術遺産を、またスペインの自然を満喫する旅程を提供しています。型にはまったツアーとは全く違い、魅力溢れるあまり知られていない街や村を訪れます。

中世の街で、ワイン文化の伝統を守り続けているラグアルディアから

出発し、有名なリオハワインに関する、2つの興味深いルートを紹介いたします。

素晴らしいワインの試飲を始め、ブドウ園の 入念な手入れから、樽での熟成までの醸造過程の 見学もして頂けます。

ワインと建築様式

この旅程では、3つのワイナリーに行きます。こ

れらのワイナリーは、ワインの品質の高さだけではなく、名高い建築家 によって設計された美しい建物でも有名です。マルケス・デ・リスカル (フランク・ゲリー氏)、イシオス(カラトラバ氏)、ロペス・エレディア

(サハ・ハディド氏)です。ここの秘密を探り、上質のワインを試飲します。その他、かつて原料のブドウを足で踏み果汁を取っていた、ワイン園の近くに岩を削って造られた空洞も見学します。



趣のある景色とブドウ園

このワインに関するルートは、遺産が多く残るリオハの小さな村サン・ビセンテ・デ・ラ・ソンシエラに行きます。また、中世の街の典型的な構造が残るブリオネスにも立ち寄ります。ここの旧市街は、歴史・芸術遺産として公認されています。ここではビバンコー家が従事する名高いワイナリーを訪れます。幅広い知識を持って、私たちと豊かなワイン文化を共有してくれます。最後に優れたワインの試飲もあります。

www.itinerumtours.com



1985 年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。 日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5





お問い合わせ先

日西商業会議所 /



Cámara de Comercio Hispano Japonesa

www.camarajaponesa.es/jpn

「女性のスペース」を 考える。



「女性のスペース」と題する催しを、日本スペイン交流400周年記念行 事のひとつとしてセルバンテス文化センター東京は開催しています。 これは、各分野に傑出した女性芸術家、思想家、作家、政治家をお 招きしシリーズでお話を伺うものです。前世紀にはじまったフェミニズ ム運動以降、女性の地位向上という意味で、社会に例を提示すること ができる方々の登壇を予定しています。シリーズ第1回講演は国際女 性デーにあわせて企画され、作家のカルメ・リエラ氏とロサ・モンテ ロ氏を東京に招きました。

おふたりはまず、3月7日に昨年当センターと相互協力合意を交わした 東京外国語大学で講演会を行い、翌3月8日にセルバンテス文化セン ター東京に来館されました。ふたりの文学的レベルとお互いの理解、 友情などを鑑みるに「女性のスペース」のオープニングに、彼女達ほどふ さわしい講演者はなく、またこれ以上ない程素晴らしいご講演をいた だくことができました。3月8日、国際女性デーを記念してセルバンテ ス文化センターで開催された講演は、150名以上の聴衆で満席となり ました。またスペイン大使ご夫妻をはじめ、ラテンアメリカ諸国外交団 の方々が多数ご来場されました。▶

Dentro de la programación establecida por el Instituto Cervantes de Tokio con motivo del Año Dual España Japón, se ha programado una serie de actividades que bajo el título general de Espacio Femenino, pretende traer a Tokio a mujeres artistas, pensadoras, escritoras, políticas, etc... que han destacado en su profesión y que pueden dar muestra de la evolución del papel de la mujer en la sociedad desde la revolución feminista del pasado siglo.

Decidimos que este ciclo se abriera con motivo del Día Internacional de la Mujer y por ello invitamos a las escritoras Carme Riera y Rosa Montero para que vinieran a Tokio y dieran una conferencia en la Universidad de Estudios Extranjeros de Tokio el 7 de marzo, en virtud del Convenio de colaboración firmado con el Instituto Cervantes el pasado año, y que el día 8 de marzo, el Día Internacional de la Mujer, dieran otra conferencia en el Instituto Cervantes de Tokio. La compenetración, complicidad, amistad y nivel literario de ambas se tuvo en cuenta para elegirlas a la hora de inaugurar Espacio Femenino y los resultados no han podido ser mejores. El 8 de marzo con motivo del Día Internacional de la Mujer intervinieron en el Instituto Cervantes con el auditorio abarrotado de público, más de 150 personas, en el que hubo representantes diplomáticos de un gran número de embajadas latinoamericanas que junto con el Embajador de España y su esposa, se unieron para festejar este emblemático día. >









1 ロサ・モンテロ氏 Rosa Montero 2 カルマ・リエラ氏 Carme Riera

- 3 ロサ・モンテロ氏とカルマ・リエラ氏の対談中の1コマ。 Rosa Montero y Carme Riera en un momento de su charla en el Instituto Cervantes de Tokio.
- 4 対談後、アントニオ・ヒル氏を交えてのトーク。 Carme Riera, Rosa Montero y Antonio Gil durante el diálogo que se originó tras su charla.

男性に生理があったなら 文学は血に関するメタファーで溢れているだろう

ロサ・モンテロ氏は冒頭、もし男性に生理があったなら文学は血に関するメタファーで溢れるだろう、とメアリ・ルノーの作品を例にコメントしました。ルノーはその物語の中で、アレクサンダー大王の亡き後、帝国を引き継ぐ予定だったロクサーナが、戴冠式の日に生理が始まって衣装を血で汚したため、男たちは彼女を排除し帝国を継がせなかった、と書いています。モンテロ氏はまた、女性が常に男性支配の世界で生きてきたこと、フェミニズムの改革で大きな変化があったものの、性差別はまだ存在していることを話しました。女性は男性よりも読書家で、女性作家の方が出版数も多い、けれども問題は女性が権力に近づくと同時に生じるのです。というのも文学批評家には圧倒的に男性が多いからです。年間、数十年、また数世紀に渡る優れた作家のリストを見ればそのほとんどが男性作家であることがわかります。なぜならそのリストは男性が作るからなのです。

ノーベル賞を受賞した女性は全体のわずか11%

女性差別を示すデータを観客へ促すと、世界的なシンポジウムにおける参加者の大多数が男性であること、名誉博士号を持つ女性の割合は全体の8%、ノーベル賞は11%、セルバンテス賞は9%で、この現実の責任の一端は女性にもあるとしつつも、事実女性は軽視されている、ということを明らかにしました。残念ながら、女性作家が女性を主人公にするとそれは女性についての作品と思われる一方、男性作家が男性を主人公にすると、それは人間について語った作品と捉えられることを指摘しました。女性の読者さえもそう思いこんでしまうのだと。また2人の女性を例に出しました。1人はジャンヌ・ダルクで、彼女は結局火あぶりにされてしまい、もう1人のボバリー夫人は、本を読むだけで気がふれてしまいます。これは「女性は家の仕事をしていればいい」というメッセージを残すものです。

モンテロ氏によると、2000年のアカデミック部門のデータでは、56%の賞が女性に授与されているものの、だからといって女性がより多くの、またはよい仕事を得る、という結果に結びついているわけではないことを示しました。多くの国で女性に起きていることとして、学校に通わせないよう頭に銃撃をうけたアフガニスタンの少女マララへのインタビューについて話しました。男性を助け、また著名な男性らの仕事を肩代わりしてきた多くの女性たちが、その功績を認められることはなかったのです。マリア・レハラーガは夫、グレゴリオ・マルティネス・シエラの名前で本を書きました。そして一人前の作家となった後も、夫の名前でその愛人を主人公とした作品を書き続けました。その上、夫が講演会で発表するフェミニズムの原稿まで代筆していたのだそうです。

タバコ、ミニスカート、ビールやワインで即刻解雇

続いてカルメ・リエラ氏が、モンテロ氏のトーク9割以上に同意するとしながら自身のお話をはじめました。彼女はクララ・カンポアモールの名をつけた通りが、全ての都市にあるべきだと言います。カンポアモールは女性の参政権を

Comenzó su intervención Rosa Montero diciendo que si los hombres tuvieran la menstruación, la literatura estaría llena de metáforas sobre la sangre y puso como ejemplo la novela de Mary Renault donde relata que tras la muerte de Alejandro Magno, le iba a sustituir como cabeza del imperio una mujer Roxana y que al menstruar el día de su coronación y manchar los vestidos de sangre, hizo que los hombres la rechazaran y perdiera el imperio. En palabras de Rosa Montero, las mujeres han vivido siempre en un mundo dominado por los hombres y aunque desde la revolución feminista ha habido grandes cambios el sexismo sigue existiendo. Puso como ejemplo el hecho de que aunque las mujeres leen más que los hombres e incluso publican más, el problema surge cuando se llega a los escalones del poder. Así en cuanto a los críticos literarios, la gran mayoría son hombres. Si se miran las listas de los mejores escritores del año, de la década o de la centuria, la gran mayoría son también hombres, ya que son listas elaboradas por hombres.

Dio también una batería de datos para demostrar el sexismo y animó al público asistente a que buscara datos y vería que en los grandes simposios que se han celebrado en los distintos países, la mayoría de los participantes han sido hombres. Del mismo modo, el porcentaje de mujeres con doctorados honoris causa es solo de un 8%, el de premios Nobel un 11% o el de los premios Cervantes un 9%, con lo que denunció el hecho de que las mujeres estaban ninguneadas, aunque reconoció que a veces las mujeres tenían parte de culpa de estos hechos. Para ilustrar que sigue habiendo sexismo, comentó como ejemplo el hecho desesperante de que cuando una mujer escribe una novela protagonizada por una mujer todo el mundo piensa que escribe de mujeres, mientras que cuando un hombre escribe una novela protagonizada por un hombre todo el mundo piensa que escribe sobre el género humano, y en esta trampa hasta caen las mujeres lectoras. En este contexto hizo referencia a dos mujeres que al realizar actos que en general son realizados por hombres acabaron mal, así Juana de Arco acabó en la hoguera o Madame Bovary acabó desquiciada simplemente por leer, lo cual deja el mensaje claro: "La mujer a sus labores".

Sin embargo según Rosa Montero, esto no se corresponde con la realidad va que si consultamos los datos académicos del año 2000 el 56% de los premios académicos fueron otorgados a mujeres, lo cual no tuvo como consecuencia que consiguieran más o mejores puestos de trabajo. Rosa Montero denunció lo que estaba ocurriendo en muchos países con las mujeres y puso como ejemplo la entrevista que recientemente realizó a Malala, la niña de Afganistán a la que dispararon en la cabeza por empeñarse en seguir yendo a la escuela. Finalizó su intervención diciendo que muchas mujeres han ayudado, e incluso hecho el trabajo de algunos hombres ilustres y sin embargo aun sabiéndose, nadie les ha dado el correspondiente reconocimiento. Puso también como ejemplo el caso de María Lejárraga que escribió las obras que firmaba su marido, Gregorio Martínez Sierra e incluso después de dejarla por una artista, Lejárraga seguía escribiendo obras que él firmaba y donde su amante tenía el papel protagonista. El colmo de los colmos decía Montero fue que le escribía también conferencias sobre temas feministas para que él las pronunciara.

Carme Riera comentó que estaba de acuerdo con los planteamientos de Rosa Montero en más de un 90%. Comenzó su intervención diciendo que en todos los pueblos debería haber una calle dedicada a Clara Campoamor por ser la persona que llevó al parlamento el que las mujeres pudieran votar, incluso

カルメ・リエラ氏(左) ロサ・モンテロ氏(右) アントニオ・ヒル氏(中) 浅草,浅草寺にて Carme Riera y Rosa Montero con Antonio Gil en el Templo de Sensoji en Asakusa



議会に要求しました。彼女は女性が参政権を持つと右派が台頭する、夫の言いなりで投票してしまう、とする同士たちと対立しながらも、これは男女同等のための第一歩で、最も大切なことは選挙権を行使できるようになることだと説きました。また1920年代に女教師が結んだ業務契約について触れました。タバコを吸う、ミニスカートをはく、父親や兄弟以外の男性と出歩いたり、ビールやワインを飲む、という個人的なことでさえ、それと分かれば女性は即刻解雇されたのだそうです。自身の世代に大学で職に就く女性は非常に少ないこと、今日のスペインにおいては婦人科学ですら女性正教授が一人もいないと皮肉を交えて話しました。恐らくこれは、夜の外出や、見知らぬ人と接することが多いためなのでしょう。このように、20年から80年代にかけては大多数の女性が"女性の仕事"と呼ばれる教師や看護婦の勉強をしたのです。興味深いことに、古代ギリシャの時代から女性は男性よりも文学に関わりがあります。それは聖母の受胎告知の絵に、聖母が本を読んでいる姿からも見ることができます。ただ、聖母が生きていたその時代には全くありえないことでした。一方東洋コプトの絵には縄で編む籠が描かれています。

「ガラスの天井」が遮る女性の社会進出

話は大企業、国際的企業、銀行などの上層部に占める女性の割合に移りました。女性の割合は3%で、EUによる女性の割合を増やす努力にもかかわらず、経済危機の煽りをうけて目標を達することはできませんでした。EUは2010年までに女性の割合を60%に引き上げるとしましたが、スペインではかろうじて50%に達するという結果でした。リエラ氏は、本当の意味での男女平等には男性の協力が不可欠だといいます。アメリカでよくいわれる、女性が職場で直面する「ガラスの天井」を例にあげました。それは女性が仕事でこの天井を超えたり、壊したりすれば社会は弱体し、痛みを感じるであろう、だから女性は低い職についていればよいのだ、というものです。また夫に多大な貢献をしたにもかかわらず、無名に終わった女性の役割について、悲しげに語りました。アインシュタインのはじめの妻は、相対性理論に大きな役割を果たしたにもかかわらず、それを知る人はほとんどいません。彼女は来場者にも問いかけましたが、知っている人はいませんでした。

最後に、ブルカを身に付ける女たちがどう感じるのか実際に試してみたこと、 それが最悪の経験であったことを話しました。目の前しか見えず、脇で何が起 きているのか分からない。つまりこれはある種の牢獄に住み、檻の中からの視 点でしか人生を見ることができないということです。これに対して戦っていき ましょうと観客に話しました。

お二人のトークの後は、活発な質疑応答が行われました。その質問のほとんどが女性からのものでした。今回の講演会はトルコ航空様からご協賛をいただき開催されました。またイベント終了後は三国ワイン様にご協賛いただいたカタルーニャ地方のカヴァでレセプションを開催し、ご来場いただいた皆様とさらなる意見交換をすることができました。このような催しは私たちに、今一度自分が正しい道を進んでいるのだろうかと考える機会を与えてくれます。女性、男性に関わらず、今後もこのように興味深いテーマを日本の皆様に提起していきたいと思っております。

enfrentándose a sus correligionarios que le decían que si las mujeres votaban ganarían las derechas, pues harían lo que les dijeran sus maridos, pero ella dijo que ese sería el primer paso para igualar los derechos del hombre y la mujer, que lo importante era que pudieran ejercer su derecho al voto.

A continuación comentó un contrato de trabajo de una maestra de los años 20 en el que asuntos personales como fumar, llevar una falda más corta de lo debido, salir con hombres que no fueran su padre o hermano, beber cerveza o vino, etc ... suponían inmediatamente la cancelación del contrato. Habló del escaso número de mujeres de su generación en puestos universitarios, incluso comentó con sorna que aún hoy en España no hay una sola mujer catedrática en ginecología. Esto, según Riera, se debe posiblemente al hecho de que tendría que salir por las noches y encontrarse con desconocidos. Así entre los años 1920 y 1980 un gran porcentaje de las mujeres trabajadoras hicieron lo que se llamaban carreras femeninas: maestra y enfermera. Curiosamente desde la antigua Grecia la mujer se ha asociado más con la literatura que los hombres y que esta corriente podía observarse por ejemplo en los cuadros occidentales de la Anunciación donde aparecía la Virgen levendo un libro, lo cual era totalmente imposible en la época en que vivió la Virgen, mientras que en los cuadros coptos orientales, aparecía con un cestillo de hilos para tejer.

Presentó después una serie de datos y dijo que en las cúpulas de las grandes empresas, presidencias de bancos o de multinacionales, solo un 3% eran mujeres y aunque la UE había hecho esfuerzos para que aumentara el nivel de ocupación de las mujeres, la crisis había roto la tendencia prevista. Así la UE fijó para el año 2010 un nivel de ocupación femenino del 60% y en España sin embargo apenas llegó al 50%. Para romper el sexismo y que se llegue a la verdadera igualdad entre hombres y mujeres Carme Riera dijo que se necesitaba sin duda la colaboración de los hombres y puso como ejemplo la teoría americana del "techo de cristal" en cuanto al trabajo de la mujer, que dice que si se sobrepasa o se rompe ese techo la sociedad se resentirá, se sentirá herida, ya que las mujeres ocuparán los puestos más bajos. Habló con cierta tristeza del papel anónimo de la mujer a pesar de su contribución en los grandes descubrimientos y lo ilustró con el caso de la primera esposa de Einstein que le ayudó decididamente en la Teoría de la Relatividad y sin embargo era una total desconocida. Se dirigió al público para preguntar si alguien conocía su nombre, siendo la respuesta negativa.

Finalizó diciendo que quiso experimentar lo que sentían las mujeres llevando un Burka y fue terrible, ya que solo se podía ver de frente, no lo que ocurría a los lados. Es decir, era ver la vida a través de rejas que es lo que ven esas mujeres que viven encerradas en una especie de prisión y animó a luchar contra ello.

Tras la intervención de las dos escritoras se originó un animado diálogo de más de 50 minutos en el que intervinieron principalmente mujeres y que continuó en la segunda planta de una forma más distendida con una copa de cava catalán ofrecida por nuestro patrocinador local Mikuni Wine, lo que únido al patrocinio de Turkish Airlines, hizo que el conjunto de la actividad tuviese un coste mínimo. Realmente actividades como esta nos hacen pensar que estamos yendo en el buen camino, tocando temas que interesan al público japonés con independencia de que sea masculino o femenino.

Antonio Gil de Carrasco Director del Institutituto Cervantes de Tokio



日本スペイン交流400周年記念事業

新しいスペイン文化を日本へ

2013年から2014年にかけて、 日本スペイン交流400周年記念事業として スペインの芸術やデザイン、文化を伝える様々なイベントが開催されました。 スペインの現代美術、ガストロノミー、デザイン、 そしてゲームや東日本大震災をテーマにしたビジュアル・アートなど 多岐に渡るイベントには大勢の観客が訪れました。

Foto: Paula Fujiwara, AC/E

スペイン文化活動公社(Acción Cultural Española 以下AC/E)は、スペインの現代の文化や過去の遺産を国内外に普及させることを目的とする公共機関だ。AC/Eが2013年から2014年の日本スペイン交流400周年の記念事業として開催した一連のイベントでは、スペイン現代美術、東日本大震災の悲劇のビジュアル・アート、前衛的なガストロノミーとデザイン、そしてスペイン・日本・世界のゲーム、といった幅広いテーマが扱われた。AC/E主催のプログラムは、駐日スペイン大使館だけでなく、日本国内の多数の機関が関わって開催されたが、どれも大勢の観客を集め、日本のメディアにも注目された。これはイベントのレベルの高さやテーマが広く受け入れられたことの証といえる。

皮切りとなったイベントは、10月3日に東京の国立西洋美術館で開幕した「ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外一スペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』」展だ。開会式にはスペインのマリアーノ・ラホイ首相も臨席し、会期中には合計98076人の入場者に楽しまれた。タイトルの「内と外」とは、スペイン芸術の中でも最も大きなうねりのひとつとなったアンフォルメルの作家たちが、スペインの国内外で活動したことに由来する。フランコ独裁政権下のスペインに残って創作を続けたアントニオ・サウラやアントニ・タピエスの作品と、アメリカ合衆国に亡命することを選んだホセ・ゲレーロやエステバン・ビセンテの作品の、題材や色彩の違いを比較することができる展覧会となった。

続いて開催されたAC/E主催のイベントは、福島県立美術館で開 かれた現代スペインの芸術界を代表するのにふさわしいホセ・マリ ア・シシリア(1954年マドリード生まれ)の展覧会だ。彼は2011年 に日本の東北を襲った津波をビジュアルで表現した。その地で起こ ったこと、そして今も続いていることを調べ、読み解き、理解するため、 シシリアは何度も被災地に足を運んだ。セラピー&スクール アイ・ア ムの協力で被災地の学校の子供たちとアート・ワークショップを行 ったシシリアは、展覧会の会場に子供たちの作品を展示し、そのバ ックには録音した津波の生存者たちの声を流した。津波のうなり音 を電子媒体からグラフィック化した「アクシデントという名の国」とい う一連の作品群などは、観客やメディアを驚かせた。開会式の模様 がテレビニュースで紹介されたほか、共同通信社によるシシリアの インタビュー記事は、日本全国の少なくとも20都道府県の新聞に掲 載された。また、当展が東京のスペイン大使館に巡回した際には、日 本の環境大臣をはじめ、東北でシシリアの制作を援助した多くの教 育関係者や精神療法医もかけつけた。朝日新聞の記者は社説で本 展を取りあげ、シシリアから「(震災の)複雑さを抱きしめ、関わるこ とに喜びを見いだせ一」と教えられたような気がした、と述べた。

Arte contemporáneo español, exploración visual de la tragedia del 11 de marzo de 2011, gastronomía y diseño de vanguardia, además del mundo internacional de los vídeojuegos fueron los temas que centraron la programación para el Año Dual 2013-2014 de Acción Cultural Española (AC/E), organismo público dedicado a impulsar y promocionar la cultura contemporánea y el patrimonio de España dentro y fuera del país. La gran afluencia de público a los eventos de AC/E y su reflejo en los medios de comunicación japoneses demostraron el acierto en la elección de los conceptos y confirmaron la alta calidad de la realización en la que participaron, además de la Embajada de España, diversas instituciones japonesas.

La exposición que dio el pistoletazo de salida, "Dentro y fuera, las dos caras del Informalismo español en la colecciones del Museo Reina Sofía" se inauguró el 3 de octubre de 2013 en el Museo de Arte Occidental de Tokio. Su apertura contó con la presencia del presidente del Gobierno español, Mariano Rajoy, y al terminar su período de exposición el museo había contabilizado 98.076 visitantes. El título "Dentro y fuera..." hacía referencia a los pintores que trabajaron dentro y fuera de España en la corriente del Informalismo, uno de los movimientos más destacados del arte español. Los espectadores pudieron comparar las diferencias temáticas y cromáticas entre los pintores que decidieron quedarse y producir en España durante la dictadura franquista, como Antonio Saura y Antoni Tàpies, y aquellos que eligieron trabajar en el exilio y emigraron a Estados Unidos como José Guerrero y Esteban Vicente. La agenda de AC/E continuó con uno de los artistas que mejor representa el panorama artístico español actual, José María Sicilia (Madrid 1954). Su trabajo, inaugurado en el Museo de Arte de la Prefectura de Fukushima, fue una exploración visual del tsunami que arrasó la región de Tohoku en 2011. Sicilia visitó en múltiples ocasiones las zonas afectadas para investigar, descifrar y comprender lo que allí pasó y sigue pasando. El artista grabó las voces de sobrevivientes del tsunami y las expuso junto con los resultados de talleres infantiles de arte que tuvieron lugar en escuelas de la zona de Tohoku con la asistencia de un grupo de voluntarias del llamado Therapy & School I am. Títulos como "Un país llamado Accidente", telas con dibujos de las grafías que generó el rugido del tsunami al ser registrado por medios electrónicos, impresionaron por igual a espectadores y periodistas. Además de noticias televisivas sobre la inauguración, una entrevista con Sicilia realizada por la agencia Kyodo fue recogida por diarios de al menos veinte prefecturas en todo Japón. La exposición se presentó también en la embajada de España en Tokio, con la asistencia del ministro de Medio Ambiente a la inauguración y muchos de los educadores y terapeutas que ayudaron al artista en Tohoku. El diario Asahi Shimbun de Tokio dedicó en un artículo editorial a la exposición en el que comentó: ".....Sicilia se ha acercado a la complejidad de la tragedia y parece buscar regocijo al ser parte de ella...







ソフィア王妃芸術センター所蔵 内と外 スペイン・アンフォルメル絵画の2つの『顔』展 (東京 国立西洋美術館) スペイン首相 マリアーノ・ラホイも臨席した

AC/Eは、日本のデザイナーやデザイン好きな人たちに向けて、世界で人気のスペイン・ガストロノミーにも劣らないスパニッシュ・デザインを、ビジュアルで紹介する展覧会を開催した。建築家兼デザイナーのジュリ・カペーリャがキュレーションを務めたこの「タパス:スパニッシュ・デザイン・フォー・フード」展は、2013年の東京デザイナーズウィークのイベントの中で開催され、会期中2万6千人以上の来場者を集めた。スペイン人デザイナー、エウジェニ・キジェットがデザインしたエールフランス航空の機内食用食器類や、アナ・ロケーロによる、西洋風にスープが飲めるスプーンに早変わりするお箸などのシリーズ「Jomon」といった作品が展示された。

会期中は、例えばアイスキューブの型や、食べ物を葉っぱの形にする型などの商品について、「どこで買えるのですが?」「流通させたいのだけど」といった問い合わせが数多く寄せられた。また、パン用まな板がキッチンの外の鳥かごにチューブでつながっていて、パン屑を鳥の餌として活用できるアイディアや、スペインの伝統的なポロンというガラス製の容器をパロディー化した「コポローン」のアイディアは、エコの面や友達とのパーティで盛り上がれる面からも、日本で受け入れられるのではないかとの声が来場者から聞かれた。ヒゲの形をしたチョコレートや、ネクタイが印刷されたナプキンは、おもしろいし実用的でありながらクリエイティブで、プレゼントに喜ばれるだろうと高く評価された。

このタパス展ではポロン、ボティホ、ボタといった伝統的な製品も紹介されたため、スペインの歴史の中では、食文化の分野も創造力と想像力に溢れていたことがよくわかる展示となった。他にも、スペインが最初の特許をとった圧力鍋や、従来のミキサーの容器の部分のコストを抑えるためにスペインで発明されたハンドミキサー、ウイング型のワインオープナーなど、あまり知られていないが実はスペイン生まれの世界的な商品も紹介された。20世紀末から発展したスペイン人シェフの豊かな創造性が、デザイナーをも刺激し、関心を食に向かわせたことがよくわかる展示で、食と優れたデザインの蜜月はこれからも続くことを感じさせた。

Para llegar a los diseñadores japoneses y a los amantes del diseño en Japón AC/E asignó al arquitecto y diseñador Juli Capella la tarea de comisario de una exposición que permitiera entender de forma visual cómo el diseño español está a la par con su prestigiosa gastronomía.

El resultado fue TAPAS, Spanish Design for Food una exposición que se inauguró como parte de la Semana del Diseño de Tokio (TokyoDesigners Week 2013) donde sobrepasó los 26 mil visitantes. En la exposición se pudieron ver obras de Eugeni Quitllet, el diseñador español que diseñó la vajilla de a bordo para Air France o de Ana Roquero que en su colección Jomon incluía palillos orientales adaptados de una manera ingeniosa para convertirse en cuchara y tomar sopa a la manera occidental.

Durante la exposición se recibieron numerosas consultas de personas interesadas en comprar o distribuir algunos productos como el molde para cubos de hielo perfectos o las plantillas para darle formas de hojas a los alimentos. Entre los visitantes se escucharon comentarios de que la tabla para cortar pan con el canal para enviar las migas a los pájaros fuera de la cocina o el coporrón (mezcla paródica de una copa con el tradicional porrón español) eran ideas que tendrían aceptación en Japón bien por ser ecológicas o por ser divertidas para las reuniones de amigos. Los bigotes de chocolate o la servilleta-corbata tuvieron gran acogida como potenciales objetos de regalo por ser divertidos e ingeniosos sin perder su función original.

El haber incluido productos tradicionales como el porrón, el botijo y la bota en TAPAS respondió a la intención de mostrar que la culinaria no ha sido un espacio ajeno a la creatividad y a la imaginación en la historia de España. También se incluyeron productos cuyo origen español se desconoce como la olla express (cuya primera patente fue española), el minipimer o batidora de mano inventada en España para eliminar el coste del vaso de vidrio de la licuadora original o el sacacorchos de palanca. Los visitantes entendieron que la abundante creatividad de los cocineros españoles desde finales del siglo XX incentivó a sus diseñadores a prestar mayor atención a la cocina y que buena mesa y buen diseño son ya uno solo.









スペインの文化部門のグローバル化を図るため、2013年9月から 12月の間、AC/Eは東京ワンダーサイトと二国間交流事業プログラ ム、クリエーター・イン・レジデンス<マドリードー東京>を開催し、 スペインと日本のクリエーターの文化交流を図った。東京ワンダー サイトは、スペイン人のエサウ・アコスタとルイス・ウルクロを招聘し、 マドリードのアートセンター「マタデッロ・マドリード」は日本人のクリ エーター中島佑太と佐藤未来を受け入れた。クリエーター・イン・ レジデンスのプログラムから生まれたのは、ルイス・ウルクロと、シェ フのミゲル・アンヘル・デ・ラ・クルスが行った、デザインとガストロノ ミーのワークショップ「俳句としてのタパス(Tapa as Haiku)」であ る。服部栄養専門学校の協力のもと開催されたガストロノミーのワ ークショップでは、参加者は日本の食材を使ったタパスづくりに挑 戦。またデザインのワークショップでは、参加者が各自好きな本を一 冊選び、そこに書かれた概要を「タパスをひとつ食べるのにかかる 時間」と同じ長さのビデオにまとめる、というものだった。

Para ayudar a la internacionalización del sector cultural español AC/E llegó a un acuerdo con Tokyo Wonder Site y puso en marcha, entre septiembre y diciembre de 2013, la Residencia de Creadores. Tokio-Madrid en la que se estableció un intercambio de artistas entre España y Japón. Tokyo Wonder Site acogió a los españoles Esaú Acosta y Luis Úrculo y Matadero Madrid recibió a los artistas japonesese Miku Sato y Yuta Nakajima.

Una derivación del programa de residencia de creadores fue el taller de Luis Úrculo que junto al chef Miguel Angel de la Cruz realizó TAPA AS HAIKU, talleres paralelos de diseño y gastronomía. En el taller gastronómico, realizado con la colaboración de la Escuela de Nutrición Hattori de Tokio, los participantes realizaron una tapa real con ingredientes japoneses. En el taller de diseño la "tapa" era un vídeo basado en el concepto de un libro que debía durar "los mismos segundos que tarda uno en comerse una tapa".







ワークショップ「俳句としてのタパス(Tapa as Haiku)

一連のイベントの最後に、AC/Eは"ゲーム"という新しい分野を選 び、西洋と日本のゲーム業界の人々が交流し、知識や経験を分か ち合う「ゲームラボ・カンファレンス東京」を開催した。駐日スペイン 大使館のホールで3月27日・28日に開催された当イベントには、マ -ク・サーニー(プレイステーション4のリードアーキテクト)、菊川 曉(株式会社ガーラのグループCEO)、大塚純(LINE株式会社の グローバルビジネスディベロップメントマネージャー)、ダニエル・サ ンチェス・クレスポ(ソニー・バルセロナ・スタジオ、Novaramaのク リエーティブ・ディレクター)など、クリエーターや国際部門のトップ が登壇し、モバイルとコンソールのゲームの現状、日本市場の特性、 スペイン企業がさらに世界と深く協力していく可能性などについて 話し合われた。

AC/Eは、日本スペイン交流400周年に開催したこれら一連のイベ ントを通し、スペイン文化外交の新しいガイドラインを示すとともに、 今後のさまざまな展開に期待を抱かせる結果を残した。

ゴンサロ・ロブレド

Para finalizar con uno de los sectores más actuales AC/E eligió la conferencia Gamelab, una plataforma que propició el diálogo, el conocimiento y el intercambio de experiencias entre profesionales occidentales y japoneses del sector de los videojuegos. El evento reunió los días 27 y 28 de marzo al auditorio de la embajada de España en Japón creadores y directivos internacionales de la talla de Mark Cerny (arquitecto de la consola PlayStation4), Satoru Kikugawa (Group CEO de Gala Inc.), Jun Otsuka (CEÓ Global Business Development Manager de LINE Inc.) y Sánchez-Crespo (CEO de Sony Barcelona Studio y Creative Director of Novarama) quienes abordaron temáticas como la dicotomía entre móviles y consolas y analizaron las particularidades del mercado japonés y las posibilidades de ahondar más su colaboración con empresas españolas y de otras partes del mundo.

Con la programación del Año Dual AC/E mostró unas directrices novedosas de la nueva diplomacia cultural española v sirvió además para dejar muchas puertas abiertas para los años

Gonzalo Robledo



Gonzalo Robledo ゴンサロ・ロブレド

Gonzalo Robledo ゴンサロ・ロフレド
1958年南米コロンビア、ペレイラ生まれのジャーナリスト/プロデューサー。1981年より東京在住。これまでにスペインの全国紙エル・パイース(El País)通信員、RTVEスペイン国営テレビジョン通信員、そしてEFEスペイン通信社東京支局員を務める。TVE、テレマドリッド、カナル・スール、EFE-TV、カナル・クアトロ等、スペイン語圏の各テレビ局向けに、ルボタージュやドキュメンタリーなど、数々のTV番組の脚本・制作・演出を手掛ける一方、日本でも、NHKテレビ、関西テレビ、映画制作会社「エクセレント・フィルム」向けに番組を制作。日本では、アサヒグラフ(朝日新聞社)、毎日グラフ(毎日新聞社)、コモンセンス(教育社)、カーグラフィック、ナビ(二支社)、フォーカス(新潮社)等、多数の雑誌に写真・記事を掲載。スペインでは、日本及び日本文化に関する記事をGEO、Altair, Islas, Lonely Planet かどの雑誌に掲載。 Lonely Planet などの雑誌に掲載。

日西交流400周年と東日本大震災追悼ミサ

世界中にその惨劇を轟かせた東日本大震災。

あれから3年が経ち、現在でも福島原子力発電所事故収束に向け日夜激務に取り 組んでいらっしゃる方々や被災された方々についての報道に一喜一憂する日々が続

2014年は、支倉常長率いる慶長遣欧使節団がセビージャ郊外のコリア・デル・リオ 市に着船してから400年を迎える記念の年であるが、それは上一行がスペインに到着 した1614年が、1611年に起こったやはり三陸を震源とする慶長三陸地震からちょう ど"3年後"だったという歴史的偶然とも重なっている。

2014年3月11日を迎えたセビージャではコリア・デル・リオ市を中心とし、数々の日 西交流400周年記念行事が"東日本復興・元気な日本展実行委員会"の呼びかけのも と執り行われたが、その中でも11日夜に世界遺産であるセビージャ大聖堂にて開かれ た追悼ミサは一際感動を与えるものであったことは間違いない。マドリードより佐藤悟 大使を始め、セビージャ、そしてコリア・デル・リオ両市長、フランスよりデザイナーの高 田賢三氏等要人を始め、使節団の子孫達と考えられているハポンの姓を持つ方々や日 本を愛するスペイン人、スペイン各地に居住する日本人が多数参列し、大聖堂のパイ

には「君が代」が再びパイプオルガンにて演奏され、感動的な幕引きとなった。

写真左:神聖な雰囲気にて行われた追悼ミサ 左下:佐藤日本大使を始め要人も参列した 右下:遠いスペインから日本を想う参列者たち

プオルガンの賛美歌が流れる中、フェルナンド・ガルシア・グティエレス神父を中心

とし日本語を交えて開会された。神父はイエズス会士として1956年に渡日し、上智

大学でも長く教鞭を執えていた。神父の日本語による被災者の方々への哀悼と励ま しの祈りは参加者全員の心奥深くまで届き、スペインと日本はもちろん、世界が一

つになった瞬間を実感させた。それは慶長使節団がもたらした目に見えない日西の

強い絆となって大聖堂より大きく放たれ世界へと発信されたのである。ミサの最後





日本にてフォワーダー、米通信機会社勤務後、2001年よりセ ビージャ在住。2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダ ルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイス ターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオ イル・エキスパートに。現在は、オリーブオイルコース、食品輸 出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳等スペインと日本を 橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。

HP:www.creapasion.com / http://spain.fc2web.com/

田中 富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka





文 田中富子

写真協力:東日本復興・元気な日本展実行委員会(日西観光協会)

西宮市国際交流協会

スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介

3月1日に開催された会のタイトルは「Menorca, la otra Isla(メノルカ、知らざる 島)」でした。殆どの皆さんはMallorcaについては聞いたことがあっても、Menorcaを ご存知の方は少ないのではないでしょうか?講師のMireia Daroca Ponsさんはこ の島、Menorcaのご出身で現在京都にお住まいの女性です。

西宮市国際交流協会スペイン語ボランティアは「スペイン語おしゃべりの会」を年 4回開いています。毎回いろんな伝手で講師を探してお願いしていますが、Mireiaさ んはacueductoの記事から私達の活動を知り、是非生まれ故郷の美しい島を紹介 したいと講師を自ら申し出てくれました。

会の打ち合わせのため、京都まで会いに行きましたが、Mireiaさんは開口一番「ス ペインでも自分がMenorca生まれだと話すと、ああMallorcaですかと反応されるこ とが多いのですよ」と話され、ちょっと悔しい思いをされているようでした。そこで今回 は、Menorcaについて全くといっていい程知識がない私達に、島全般の話しをしても らうことにしました。

当日の「おしゃべりの会」では「マヨネーズはMenorca島が発祥の地です!」と先 ず興味を惹く話題から始めてくれました。私達の多くはフランスで考案されたと考 えていますが、なんでも18世紀にフランス人のある公爵がMenorcaで立ち寄った レストランで肉料理に添えられていたソースが気に入りパリに持ち帰ったところ、人 気が出てフランスから世界に広まったため、フランス製と思われているようです。「マ ヨネーズという名前から、Mallorca島が発祥の地ではないか?」という質問も参加 者からあり、きっぱり「マヨネーズはMenorcaで初めて作られたものです!」との答 え。Menorcaのことを印象付けられました。

この島は人口は約8万人、面積は琵琶湖より少し大きく、美しい海岸に囲まれてい て特に夏場には多くの外国人観光客が訪れているとのことです。特産品として人気が あるのはカラフルなサンダル (las avarcas)、食べ物では島の牛のチーズ、甲殻類の スープ (caldereta de langosta)があるとのことです。

また、小さな島であるが故の、激動の歴史には驚きました。10世紀にはモーロ人が 侵略、16世紀にはトルコの海賊に苦しめられた苦難の時代があり、「スペイン王位継戦

争」が始まった18-19世紀に はイギリス→フランス→イギリス →スペイン→イギリス→スペイ ンその後ナポレオン軍に占領さ れた時代を経てスペイン領にな

現在イギリス時代の特徴の ある大きな時計台のある建物 が保存され観光に役立ってい るとのことです。Menorca島で はスペイン語よりカタルーニャ 語のほうがよく話されています。



島の歴史からも分かるように多くの異文化が混ざり合って現在のMenorcaがある のですね。こんな魅力あふれる鳥を是非訪ねてみたいと思いませんか。

文·写直提供 谷善三

スペイン語おしゃべりの会 次回開催予定

日 時: 2014年6月21日(土)午後2:00-3:30

所: 〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮 4階

(公財) 西宮市国際交流協会 会議室

ゲスト: Sandra Cuestaさん (京都外国語大学講師)

参加費: 500円/定 員:30名(先着順) お申し込みはお電話、FAX、E-mailにて

お電話: (0798)32-8680 / FAX: (0798)32-8678

E-mail: nia930@sound.ocn.ne.jp

建築家・ガウディと漫画家・井上雄彦の時空を超えたコラボレーション 「特別展 ガウディ×井上雄彦 - シンクロする創造の源泉 - 」 7月から六本木の森アーツセンターギャラリーで開催

7月からスタートする「特別展 ガウディ×井上雄彦 - シンクロする創造の源泉 -」の記者発表会が4月9日、スペイン大使館で開催された。同展は19世紀~20世紀にかけてバルセロナを中心に活動した建築家アントニ・ガウディと、国内発行部数1億部を超える「SLAM DUNK」をはじめとする人気漫画を描く井上雄彦がコラボレーションした、「日本スペイン交流400周年」文化事業のフィナーレを飾る企画。発表会には駐日スペイン大使、東映、テレビ朝日などの主催者とともに、出品作品の創作活動のためバルセロナに滞在していた井上雄彦がインターネット中継で参加した。

東映 取締役の堀田耕二は、「建築と漫画という異色の組み合わせが展覧会というステージでどんな化学変化を起こすのかという視点でスタートさせた」と開催までの経緯を説明。「一建築家の業績を辿るだけのものでなく、ガウディの人間像を通じて、自然の偉大さ、人間の創造の無限さ、今もなお建設が続くサグラダファミリアのように、作り続けることの大切さを伝えていくものになればと考えている。更に漫画がコミックという枠を飛び出して、インターナショナルな言語として世界を繋げていくことを期待している」と述べた。また、ガウディ研究の第一人者である神奈川大学教授 鳥居徳敏による展覧会解説、同展公式ナビゲーターとして建築家の光嶋裕介が紹介された。井上雄彦は「ガウディと私の共通点は作品の完成を急がないところ。スペインの文化や生活スタイルにも身を委ねながら、お天道様にしたがっていい形のものができたらいいと思う。」と意気込みを語った。東京開催の後、金沢、長崎、兵庫、宮城に巡回する。



記者会見の模様。(前列左より)展覧会公式ナビゲーターの光嶋裕介氏(建築家)、 スペイン大使ミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ閣下、 日本側学術監修の鳥居徳敏教授(神奈川大学)ほかが登壇していました。



写真左:井上雄彦《トネット》
2013 ©I.T.Planning
下:井上雄彦 ©I.T.Planning,
日経BP社(写真:川口忠信)
右:《サグラダ・ファミリア聖 堂模型》 制作:サグラダ・ファミリア聖堂模型を ©Junta
Constructora del Templo
de la Sagrada. All rights
reserved.







写真上:アントニ・ガウディ photo: Audouard & C.a, Barcelona © Institut Municipal de Museus de Reus

会期: 2014年7月12日(土)~9月7日(日)会期中無休

会場: 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

開館時間: 10:00~20:00 (最終入場 19:30)

公式サイト: www.gaudinoue.com

スペイン人ギタリストによるCDリリースのお知らせ

Hola! みなさん、こんにちは!僕の名前はフェリックス、スペインから来ました。

子供の頃から来たかった日本に5年前に旅行に来る機会があり、たくさんの街を訪れました。その後日本で暮らすことが「夢」の一つとなり、今それを実現し、大阪で暮らしています。

「夢」、「趣味」、「仕事」と言えば僕にとってギターを弾くこと。今僕はラッキーなことに日本でギターを弾いています!全てが順調に聞こえますが日本に来てから半年、実際にはそんなに簡単ではありませんでした。毎日が異国でチャレンジの日々。文化や言葉、考え方などたくさんのことが違う土地で時々は上手くいったり、いかなかったり。でもいいことも悪いことも、そして最悪な経験をひっくるめても、日本に住むことを後悔したことはないし、日毎に故郷のように心地よく感じています。

今回ここに記事を書いたのは、日本に来てからの全ての経験や気持ち、感覚、瞬間を音楽にしてシェアしたかったからです。日本に降り立った日からこのプロジェクト(CD)を始めてちょうど半年。今このCDを完成させ、人生の区切りを迎えたようなそんな気持ちです。 CDはどなたでも自由にダウンロードできます。このCDは僕が大阪で活動している東日本大震災をサポートするためのチャリティ活動のために作ったものがほとんどです。

日本に住むスペイン人が何を感じて、それを音楽にどう表現しているか興味があれば、是非聴いて下さい。それでは皆さん、近いうちに会えることを願って。

文 Félix Alonso



Félix Alonso フェリックス・アロンソ

1987年スペイン・マジョルカ島生まれ。作曲家、ギタリスト。ボストン、バークリー音楽大学にてスティーヴ・ヴァイ氏に師事。 メール: felixalonsodiaz@hotmail.comホームページ:

http://felixlahio666.wix.com/osakaguitarfelix

スペイン内戦が生んだ「ロバート・キャパ」(3)

ザール地方といえば、フランスとドイツの国境地帯にある、石炭などの重 要資源を産するヨーロッパ屈指の工業地帯である。人口の90%がドイツ系 であり、プロイセン-フランス戦争(1870~81年)の結果、ドイツに併合さ れたが、第一次世界大戦後のベルサイユ条約で国際連盟の監督下に自治 制を敷き、炭田の所有・採掘権はフランスに譲渡された。というか、戦勝国 フランス軍がライン川右岸を占領していた。それで、35年1月13日、この地帯 は現状通りフランス領か、それともドイツ併合かをめぐって住民投票が行わ れることになった。フランスはもとより近隣諸国のマスコミはこぞってこの係 争地の帰属をめぐって取材を展開し、フランスのグラフ雑誌『ヴュ』も、九月 末に2人の若手のジャーナリスト――ゴルタと自称するユダヤ系ドイツ人の 若者とアンドレ・フリーマン――を送り込み、代表的な産業資本家から炭 鉱夫まで可能な限り多様な人物に取材をして、ザール地方の日常的な雰 囲気をレポートすることであった。ゴルタが記事、アンドレが写真を担当す ることになっていた。ザール地方の中心的な町ザールブリュッケンはすでに ナチス・ドイツそのものであった。鉤十字の旗やポスターがいたる所にあり、 路上などでは荒々しい調子でナチス式の敬礼で挨拶をしていた。34年11月 7日号「ザール燃ゆ――高まる緊張」、11月21日号「ザール――ザール住 民は語る・・・・誰に投票するか」であった。だが、最初の記事には「文と写真

本誌特派 ゴルタ」とだけのクレジットが付けられていた。写真は間違いなくアンドレが写したものであった。当然彼は編集部にクレームをつけ、2番目の記事には「本誌特派 ゴルタとフリーマン」というクレジットが付けられた。これはアンドレが生活の本拠にするフランスでのデビューであった。しかも、このルポルタージュのおかげで『ヴュ』からはじめて記者証を受け取ることができた。

この頃のアンドレについて、少し気になることがある。アンドレが初めてスペイン行く直前の、1935年3月25日、行きつけのカフェ「ドーム」からニューヨークにいる母親に以下のような手紙をしたためている。(リチャード・ウィーラン『キャパ その青春』沢木耕太郎訳、文藝文庫、2004、p.148)。

僕は3日後に出発することになっております。もちろん、どうしていいかわかりません。僕はまだカメラを持っていないし、お金もたいしてありません。でも、これは最後のチャンスですし、できるだけ利用しなければなりません。昨日、ウルシュタイン社から前金として千フラン送ったという手紙を受け取りました、しかし、為替の手続きはとても複雑なため、三週間以内に届くことはないでしょう。

さらにこの評伝は、「ほとんど最後の最後になって、アンドレは出発の当日に自分の懐具合をごまかし、なんらかの方法で新しいライカを買い入れた。もしかしたら頭金だけでも支払うというようなことをしたのかもしれない」と述べている。また別の評伝も「パリを離れるちょっと前に最新式のライカをクレジットで買って、成功のための手段を得ている。交換レンズが付いた初期のモデルで、おそらく1935年にドイツで発売されたライカⅢである」とやや具体的に機種を述べている。(ベルナール・ルフラン、ミシェル・ルフェーブル『ロバート・キャパ』太田佐絵子訳、原書房、2012、p.50)。

はたしてキャパがライカを購入したという話は本当だろか。月賦、あるいは クレジットで購入するには相当の信用がなければならない。もしくは保証人 が必要であろう。セーヌ左岸の格安のホテルを「夜逃げ」したり、毎日口にするパンすらままならなかった彼にはライカはもとよりフレックス型のカメラでも、とても手の届かない高根の花であったはずだ。ところで、当時、ライカの値段はどのくらいだったのか。日本国内では、「千円もあれば家が建つと言われた」ころに、「新品のズマールF2付きライカIIIaが七百円」といわれている。(神立尚紀『撮るライカ』光人社、2007、p. 94~95)。従って、日本に持ち込めば、当時、東京で建売を一軒購入できるというのを私は聞いたことがある。これは若干大袈裟かもしれないが、ともあれ非常に高価なカメラであることに間違いない。だが、実際には、アンドレはライカを持ってスペインに行った。それではどのようにしてそれを入手したのであろうか。第二次世界大戦後、戦後の復興ぶりを取材するために、彼が来日するが、そのときスペインに持ち込んだライカとの関連で話をしたいと思う。

アンドレがザール取材に赴く少し前の話になるが、1934年9月、ゲルダ・ポホリレスというユダヤ系ドイツ人女性と偶然知り合う。1911年3月生まれというから、アンドレより2歳年上であった。リチャード・ウィーランの前掲書(p.137)は、彼女をこう紹介している。



ゲルダは、当時の人気映画女優エリザベート・ベルクナーに驚くほど似ていたが、赤みがかった明るい栗色の髪をボーイッシュなショート・カットにしていた。灰色がかった緑色の瞳の上には、眉毛が高くアーチ状にぐっと引かれていた。彼女は、5フィート1インチと背が低かったが、ふるまいに威厳があったのでそれ以上に高く感じられた。そして、彼女はアンドレと同じように貧しかったが、つねに自分を優雅に見せようとしていた。

ゲルダの個性は容貌に似て際立ったものだった。友人たちは、彼 女を、活発で、陽気で、頭が良く、回転が早かった、と言っている。彼 女は可愛い女だった。彼女は力いっぱい生きているように見えた。彼 女は美しい微笑みを持ち、小さな鹿のようなとても軽やかな歩き方を していた。

美しい、知的な女性と茶目っ気満々のズボラで、それでいてアンビシャスな若者が出会ったのはカフェ「ドーム」であった。2人とも傍から見れば美男美女の組み合わせであり、共通していること言えば、赤貧そのもののユダヤ人亡命者であった。知り合った当初はロマンスは生まれなかった、2人ともそれぞれ恋人がいたからだった。

1935年4月、アンドレは、初めてスペインに向かう。『デフォト』誌のかつての上司、シモン・グッドマンの手配した仕事であった。スペイン・バスク地方から入国した。フランスとの国境をなっているビザソワ川、その橋の上に掛かる「国境の橋」。橋のフランス側にはフランス国旗、橋を渡り進むとその中心には真横にしっかりと国境線が引かれている、さらにその線を越えると対岸の橋のたもとにスペイン共和国旗がはためいているのだ、実に感動的な国境越えである。国境の町、イルンを通り、かつては王家の別荘、それに伴うかたちで外国の大・公使館の夏の別荘のある避暑都市サンセバスチャン、そこで7月にドイツでボクシングのチャンピオンをかけて戦うことになっているバリオーノ・ウスクドゥンの練習風景の取材、そしていよいよマドリード。スペインで最も有名なパイロット、エミリオ・エレーラ陸軍中佐の気球で2万5千メートルの上空を飛ぶ準備中の取材、4月14日のスペイン共和国の第4回記念の大パレード、セビリャでの見物人が歩けないほどの賑わう「聖週間」の行列などの取材であった。

こうした彼のカメラマンとしての真価を十二分に発揮したスペイン取材記事を収録した雑誌が売れに売たのは言うまでもない。パリで待望の休暇が取れたのである。(続く)

文 川成洋



川成洋 かわなりよう / Yo Kawanari

1942年札幌で生まれる。
北海道大学文学部卒業 東京都立大学大

北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士過程修了。

社会学博士(一橋大学)。Ph.D.(ロンドン大学)。法政大学名誉教授。 スペイン現代史学会会長、武道家(合気道6段、杖道3段、居合道4段)。 書評家。

主要著書:『青春のスペイン戦争』(中公新書)、『スペイン戦争ージャック 白井と国際旅団』(朝日選書)、『スペインー未完の現代史』(彩流社)、『スペインー歴史の旅』(人間社)、『ジャック白井と国際旅団ーースペイン内戦を戦った日本人』(中公文庫) ほか。

スペインサッカーを巡る

-6-

さあいよいよ、来月には4年に一度のサッカーの祭典、W杯2014ブラジル大会が始まります。日本はグループCでコートジボワール、ギリシャ、コロンビアと、スペインはグループBでオランダ、チリ、オーストラリアと予選を戦うことになっています。

今大会のスペイン代表は前回大会優勝国としてスペイン国内だけでなく、世界中から大きな期待とプレッシャーを受けて本大会に向かうことになります。もちろん、優勝候補として2連覇を狙える力を持っていることは間違いないありません。それに加えて、実はスペイン代表には、多くのプレッシャーを跳ね返してしまうような大きな支えがピッチの外にもあるのです。その名も『ボンボマノロ』。

『ボンボ マノロ』は、30年前からスペイン代表を応援し続けているバレンシア在住のマノロさんの愛称で、スペインがワールドカップを勝てない時代も全ての試合に駆けつけ、自前の太鼓(ボンボ)を持って応援し続けていました。____

その結果、今までに8大会のワールドカップで応援に駆けつけ、ついには スペイン代表の選手と同じチャーター機に乗せてもらえるようにまでになっていました。

そして、前回大会の南アフリカ大会でスペイン代表が念願であったワールドカップ優勝を手に入れることが出来、さらに幸運なことに帰りの飛行機で選手と同じ飛行機に乗れたおかげで、ワールドカップを実際に触ることができたのです。彼にとって人生至福の時間だったし、これでいつ天に召されても良いと語っていますが、実はその裏には大きな試練があったのです。

それは、パラグアイとの準々決勝前に冬の南アフリカで半袖で太鼓を叩きすぎたせいか、移動による疲労もあってか、体調を崩してしまったのです。

それを聞きつけたスペイン代表のチームドクターが駆けつけた結果、肺炎と診断されてしまい帰国したほうが良いとの判断から、準々決勝前にして南アフリカを離れることを余儀なくされたのです。この事件はスペインでも新聞やテレビで取り上げられ、大きなニュースとなりました。

しかしそこはマノロ!!準々決勝は自分のバーの前で太鼓を叩き、スペインから応援し、準決勝のドイツ戦には南アフリカに戻って、スタジアムに姿を見せたのです。しかも半袖で元気に太鼓を叩いていたのです。もちろん、スペインはその試合も勝ち、優勝まで駆け上がるのです。

本大会に向けて彼は、「既に8大会ワールドカップを見ているけど、できれば12回目までは行きたいなぁ。ブラジル大会は今怪我した(4月に足を骨折)が治れば必ず行くよ。スペイン代表を応援しなければ!エスパーニャ!エスパーニャ!」

必ず彼の応援はブラジル大会でも聞くことが出来るでしょう。

ワールドカップまであと残り僅か。スペイン代表の試合を観戦する際は 『ボンボ マノロ』を探してみてください。きっとその熱い情熱が皆様に届 くことと思います。

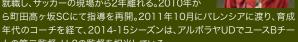
文 尾崎剛士

尾崎剛士

おさきつよし / Tsuyoshi Osaki

30歳、愛媛県出身。

2006年まで筑波大学蹴球部にて選手、少年サッカー 指導者として活動。引退後は大学院に進学、その後 就職し、サッカーの現場から2年離れる。2010年か





バレンシアのスペイン語学校 **Costa de Valencia** www.costadevalencia.com E-mail: info@costadevalencia.com







スペイン語を生きよう スペイン、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、メキシコ

スペイン アリカンテ/バルセロナ/グラナダ/ガッ/マドリッド/マラガ/マルベーリャ/サラマンカ/セビリア/テネリフェ/バレンシブ ラテンアメリカ アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/コスタリカ/キューバ/ドミニカ共和国/エクアドル/グァテマラ/メキシコ/ペル-



難破船の残した友情 DEL NAUFRAGIO A LA AMISTAD

監督・脚本:ゴンサロ・ロブレド 音楽:エルンスト・レイスグル・ 制作:2009年、バチェ株式会社 ドキュメンタリー 60分 スペイン語(日本語字幕)NTSC 収込価格:4,104円

よんだ宝物はまだ御宿沖に眠っている?

1609年、スイクのガレオン動サンプランシスコ号は、フィリビンとメキシコを 結ぶ貿易ルートを航海中、台頭にあって下頭原郷が产産艦、乗組員17人は、 専隊の付人たちに乗り出されたした。トンプランシスコラが角化。でいたは の度大な宝が引き上げられたという記録はない、はたして、御音の海の底には、 400年前の変が支圧艦っているのだろうかりその可能性をあらゆる側面から深る ドキュメンタリー。

絶賛好評発売中! お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!

ADELANTESHOP (アデランテショップ) URL : www.adelanteshop.jp TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

フラメンコスタジオ ミゲロン MIGUELON

現役で活躍中のプロが講師をするフラメンコ教室

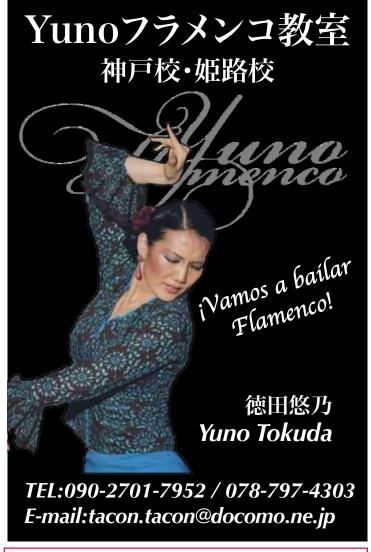


- ●石橋スタジオ 池田市井口堂 1-9-3 センチュリーショウエイ VII1 F
- ●梅田スタジオ 大阪市北区太融寺町 8-10 梅田高速ビル 604

※ダンス(バイレ)クラス 十三スタジオ(アルディエンテ)にて開講中!

Tel 072-760-4858

E-mail miguelon@nifty.com WEB http://www.miguelon.jp/



スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを避ける語感を習得。課題文139の日本文・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。



〒162-0805 東京都新宿区矢来町106 Tel. (03)3267-8531 http://www.daisan-shobo.co.j

第三書房

第2回中級ビジネススペイン語特別講座

開講スケジュール

2014年8月1日(金)~9月26日(金)の毎週金曜日計8回(8月15日は除外) (7月25日は19:00~20:00 講師紹介、講座の内容と進め方の説明、テキスト配布) Segundo Curso Intermedio Especial de Español de Negocio

对冢者

- ①現役のビジネスパーソンでビジネススペイン語力を高めることを目指す人
- ②スペイン語を学習している学生を含め将来スペイン語を使った仕事に就く予定または計画のある人
- ③スペイン語の基礎力があり、ステップアップした実践的なスペイン語学習を求める人

講座の内容

- ①マクロ情報を含むビジネス関連情報の読み取り方(ビジネス用語、大きな数字の読み方、文章表現の理解)
- ②取引先、顧客に自社業容の概要(職制、役職名を含む)や自らの担当業務を説明する
- ③他社・市場情報の読み取り(年次報告書の読み方、簡単なP/L、など)
- ④e-メールによる社内外とのコミュニケーション

(90分) 場所

スペイン語教室ADELANTE

19:00~20:30

アクセス

JR大阪駅桜橋口から徒歩5分

定員

4~5人の少数クラス (最小実施人数3名)

講師

長年の海外駐在を含めビジネス経験豊富な日本人 大学非常勤講師

由込期限

2014年7月25日(金)

受講料

45,000円(申込時に一括払い込み) 詳細問い合わせはADELANTEへ 電話:06-6346-5554 info@adelante.jp





広告を掲載して下さる企業や 個人の皆様を募集しております。 1 枠あたり5000円より掲載可能。 詳しくはお問合せ下さい! TEL. 06-6346-5554 E-mail: info@acueducto.jp







確かな技術と音楽する心を育てる

吉川二郎ギター教室

初心者歓迎!

コンサートフラメンコギター クラシックギター & ギタルパ

花屋敷教室(宝塚市) 天満橋教室(大阪市) 東京教室(月1回)

静岡教室(月1回) ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは TEL&FAX,072-793-8684

詳しくはホームページで

吉川二郎 検索

CURSOS DE ESPAÑOL

- スペイン語一般コース
- スペイン語+インターンシッププログラム
- スペイン語+バスク料理
- スペイン語+サーフィン
- ホームステイ、ルームシェア、送迎サービス等

親切なスタッフと細かなサポート

一年を通して、短期留学から長期留学が可能







大阪市西区南堀江 1-20-23-1003 Tel & Fax 06-4390-6545





Estudio Sampere

MADRID · SALAMANCA · ALICANTE (SPAIN) CUENCA (ECUADOR) · HAVANA (CUBA) **SINCE 1956**



スペイン語コース

集中コース DELE試験対策 ジュニア/シニアプログラム 専門スペイン語 大学入学準備 職業体験 スペイン語教師養成

ボランティアプログラム 旅行とスペイン語学習





Tel: +34 91 431 43 66 sampere@sampere.es www.sampere.com フォローして最新情報をご覧下さい。







Go to **Spain** with Turkish Airlines.

Discover harmony in diversity.















Turkish Airlines flies you to unique beauties of Spain. Discover all the ins and outs of it with us. We are Turkish Airlines, we are globally yours.

turkishatrlines.com | +90 212 444 0 849



スペイン語の本

adelan



06-6346-5554

06-6110-5122

email: info@adelante.jp



スペイン&中南米への留学相談、手続き代行無料サ

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて 豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続き まで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイ プログラム、スペイン語+フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、 など楽しいプログラムもあります。

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。 入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金など は全て代行いたします。

・学校への出願サポート ・学生ビザ申請書記入のお手伝い •留学費用の海外送金

・ホームステイ、寮、又はシェアフラット、 アパート等の申込み

・空港出迎えサービスなど、 各種オプションサービスの依頼代行

